

バッキ 神よ、われくの無罪を憫れ
んで、お護り下され!

グロー (おちついた調子で) い、く、大
丈夫! 身方の者だ。ラト
クリップとロエルだ。

ロエルとラトクリップとがヘス
チングスの首を布切に包
みて持つて出る。

ロエル これが、あの卑劣な謀叛人の
首でございます、さういふ危
険な人物とは思ひも附かれな
かつたヘスチングスの首でござ



ございます。

グロー (歎息して) 深く愛してゐた男だと思ふと、泣かすにはをられない。わたし
はあの男を、基督信者として此下界に生息してゐた最も正直な人間だとば
かり思つてゐた。自分の生きた備忘録のやうに思つて、心の奥底の秘密
までも打明けたのであつた。生得の悪い根性を、美德の外見で、巧く塗隠
してゐたから、例の公然の品行だけを除くと、……といふのは、あのジョ
ーアの妻との密通一件を除くと……彼れは、如何いふ不都合なこともない
男だとばかり思はれてゐた。

バッキ いや、どうも、あの仁は、實に珍しい、白ばツくれた謀叛人でしたよ。……(市
長に) 若し幸ひに、天佑によつて、生存へて、斯うしてお話をするやうであ
りませんでしたら、あの陰險な謀叛人が、今日、議會で、手前並びに此グロ
ースター公爵閣下を殺さうと企てたなんぞといふことは、到底あなたの想

像にさへも浮びますまい、いはんやお信じなさることは尙更でせう。

市長 えッ！　ヘスチングスどのが、果してそんなことを企てられましたのですかッ！

グロー (わざと激して開き直つて) えり？　あんたはわたしたちをばトルコ人か不信者かのやうに思つてゐるのか？　又は、國法に背いて、輕忽に死刑を執行するやうな人間だと思ふのか？　うちやつといた時分には、英吉利全國の安危にも、吾々自身の安否にも係ると思はない以上、だれが斯んな英斷をするものか！

市長 (恐れて) 御好運であらせられますやう！……彼の人の死刑は當然だと心得ます。お二方の御英斷は、全く謀叛人どもの好い見せしめでございます。わたしは、あの男がショーア夫人に關係するやうになつて以來は、きツと悪いことをするだらうと豫期してゐました。

バツキ

グロー (市長に併しわたしたちは、あんたが立會ふまでは、死刑を執行しようとは

では思つてゐなかつた。ところが、此手合が(とラトクリップらへ科をして)わたしたちの爲を思つてくれる餘りに、早まつて、吾々の意思とはやゝ反對に首を斬つちまつたのです。無論、わたしたちは、貴下に此謀叛人が口づから怯々と白狀するのを聽いて貰ひたかつたのでした、どういふ仔細で、どんな風目論んでゐたかといふことを。さうすりや、市民一同へ一伍一什を貴下に説明して貰ふに都合が好いから。どんなとで、彼等がわたしたちの處分を誤解して、彼れの死を惜むやうなことがないともいへないから。いや、閣下のお言葉でございませ以上、それは手前が親しく彼の人に面會いたして白狀を聽取りましたも同然の儀にございませ。決して御懸念には及びません。柔順な市民共へは、手前から、お二方の正當なお取計らひの一伍一什を、くはしく申し聞かせませませ。

市長

グロー 全く其爲に來て貰つたのでした、すなはち、世上の惡評を避けたいためでした。

バッキ けれどもお出が遅かつたので、しかし吾々の趣旨はお解りになつたでせうから、どうか證人におなり下さい。では、市長どの、これでお別れします。

市長 入る。

グロー おい、バッキンガム、すぐに、後を、後を。市長は大急ぎで町會所へ往くんだから、足下もあそこへおッかけて往つて、都合のよさうな機を見て、兄の子供らは、正室腹ぢやアないといふことを辯じて下さい。それから、嘗て或町人が……王冠を店の看板にしてゐた町人が……店を相續させるといふ意味で、伴には是非王冠を繼承させたいといつたのを、兄が聞咎めて、死刑に處したといふことも一同へ話して下さい。それに加へて、怖ろしく淫亂で、獸のやうに味の變つた物を欲しがつて、手當り放題であつた

ことをも。婢でも、娘でも、人妻でも、其多情な目に留つたりといふと、忍耐が出来ないで、餌食にしたもんだといふことを。いや、必要な場合にはわたし自身に觸れてもかまはん。例へば、わたしの母があのだ淫な兄を懐胎した際には、父の公爵ヨオクどのは、ちようと佛蘭西遠征中であつたんだから、月數を推算して見ると、生れた子は父の胤ぢやアないことになつた。第一、容貌が下品で、少しも父公爵に似ちやアゐない、といふ點まで切込んでも可い。けれども、こりや遠廻しに、婉曲にやつて貰ひたいね。と言ふのは、知つての通り、お袋はまだ生きてゐるんだから。バッキ 御心配にや及びません、キツと巧くやりますよ、報酬の黄金物が自分の物でもあるかのやうに……では、御免を蒙ります。グロー うまくいつたら、一同を伴れて、ヘイナード城へ來て下さい。わたしは、老師や學僧と一しよに、あそこにあるから。

バッキ では、お別れします。三四時ごろには、町會所方面の吉左右をお知らせします。

バッキンガム 入る。

グロー ロエル、汝は大急ぎで博士シヨのところへ往つて来い。……(ケーツビーに) 汝は清僧ペンカーの許へ。只今すぐにベイヤード城へお出下さい、おれが待つてるから、と言へ。……

カロースター だけ残りて皆々入る。

そこで、おれは彼方へ往つて、先づあのクラレンスの餓鬼どもを始末ける内命を與へよう。それから又、あの王子らには、だれをも會はせないやうに命じておかう。

入る。

第六場 同じ處 街上

手に書面
を持ちて
書記役出
る。

書記

これはあの善

良なヘスチングスどの、彈劾状なのだ。けふセントポール院で讀上げるために、讀みいゝやうに綺麗に清書したんだ。どうだい、好い具合に論理が合はせてあらア。十一時間かゝツちまつた、昨夜ケーツビーが持込んで



來てから謄寫し始めたんだが。原稿も、慥かに其位のかゝつて書いたんだらう。だが、つい五時間前までは、ヘスチングスどのは、何の咎めも受けず、糺問も受けず、無疵な、自由な身でゐなすつたのだ！ いやはや、結構な世の中になつたものだ！ どんな鈍物にだつて、此明白な計謀が見透かされぬ筈はない。けれども、うっかりそれを見透かしたと口走るやうなそんな盲目が何處にあらう？ あゝ、わるい世の中だ。こんなわる企を黙つて見てゐなけりやならんやうぢやア、何もかもめちやくくだ。

歎息しつゝ、入る。

第七場 ベイナード城

グロースターとバッキンガムと左右から別々に出る。

グロ― どうでしたな？ 市民どもは何と言つたね？

バッキ いや、どうも、實際、市民らは全然黙口で、一言も言ひません。

グロ― エドワードの子供らは正室腹でないといふことをお言ひなすつたのかい？

バッキ はい。ルーシー姫との御婚約のことも、又お代理で以て佛蘭西の王女へ御婚約のことも申しました。それから、甚しくお多情であつたといふこと、市民の妻女連を無理にお手に入れたこと、些細な罪科を嚴罰に處せられたこと、それから御自身が、お父上佛蘭西御外征中の御誕生なことから、私生兒であつて、少しも父公爵には似ておいでにならなかつたといふこと、且つそれと共に、あなたの御様子がお風姿といひ、お氣質の氣高さといい、悉くお父上そつくりだと論じまして、それからあなたは、軍略にも平和の治術にもお秀でになつて、御寛大でもあり、御謙遜でもある、とい

ふ風に申しました。實際、必要と認めました限りの事は、すべて十二分に辯し盡しましたのでした。さうして演説の終際に、苟も國家の爲を思ふ人々は、「英國王リチャード陛下萬歳！」を唱へる、と斯う命じました。

グロー あゝ！ で、彼等が然う唱へたかね？

バッキ いゝえ。ところが、その、全く、一言もいはないのです。まるで彫像か、息の通ふ石の像かといふ風に、互ひに眞蒼になつて、顔を詠めやつてゐるばかりでした。それを見て、わたくしは、こりや不都合だ、といつて、市長に、一體どうしたわけだ、と訊ねました。すると、市長は、それは、人民は平素何事も記録係の口から聴く例になつてゐるからだ、と言ひました。そこで記録係に命じて、改めてわたくしがいつたことを傳言させました。「公爵が斯様々に言はれる。公爵が斯様々に論せられる」と。但し當人自身の見解としては、只の一言も言ひませんでした。其の傳言が了ると、會

堂の末席に居ましたわたくしの家來十餘人が帽子を抛上げて聲を揃へて、「リチャード王萬歳！」と叫びました。で、ともかくも、それを機に、「いや、ありがたう、さう足下達が一齊に歡呼してくれられるのは、明かに足下達の賢明なることを證すると同時に、足下達のリチャード公に對して、深い好意を有せらるゝことを證する」と斯う言ひすてゝおいて、すぐさま歸つてまゐりましたのです。

グロー どうして、そんなに石のやうに、黙つてゐやがつたか！ え、何とも言はな

バッキ はい、全く無言なんです。

グロー ちや、市長も、其同僚の者も、來ないのかり？

バッキ 市長は直まゐります、御心配顔をなすつていらつしやい。非常な懇願をして迫りません以上、決して面謁をお許しなさいますな。さうしてお會

ひになる場合には、經卷をお持ちになつて、左右に一人づゝ僧官をお従へになるやうにいたしたい。わたくしが、それを種に、一場の神聖な狂言を脚色みますから。要求を容易にお容れになつちやいけませんよ。例の小娘式に、口では否だ〜とおつしやつてゐて、結局御承諾といふことになさるがよろしい。

グロー　ちや、行かう。おれが自分では否だといふ、それを足下が奴等に向つて、いゝ鹽梅に操つてくれるとすると、大丈夫、うまく行くだらう。

バッキ　(向うを見て) さア〜、屋根へお上りなさいまし。市長がもうやつて來ました。……

グロースター 入る。
市長、市民多勢を従へて出る。

市長どの、ようこそ。先刻から拜謁を願つて、斯うして待つてゐるんです

が、公爵はどうしてもお會ひにならん積りらしい。

ケーツビー 出る。

おゝ、御家來が來た。……ケーツビー、どうでしたね？　どういふ御返辭でしたい。

ケーツ　閣下、どうか明朝か、明後日、お出を願ふやうにしたいと申されます。公爵は、只今あちらで、老師お二方と御一しよに、一心不亂に神聖な御勤行中でございますから、俗の願ひ事などは、申し上げて見ましたところで、逆もお聽人にはなるまいと存じます。

バッキ　いや、ケーツビーどの、もう一度往つて來て下さい。

ケーツ　仰通りを申し傳へませう。

ケーツビー 入る。

バッキ　(市長に) ねえ、どうです、果してエドワード王などとは違ひませう！　決し

て日中に、でれ〜と安樂床に凭れかゝつてをられるやうなことはない。
 跪いて黙禱を事としてをられる。賤しい女なんぞと戯れてはをられな
 い、博學の高徳を左右にして、沈思冥想に耽つてをられる。午睡をして、
 懶惰な肉體を肥らせてをられるのではなく、祈禱で暫くも眠らない靈魂を
 向上せしめてをられるのです。さういふ徳の高いお方が國王となられる
 やうだと、英國の幸福は此上らないのですが、迎も御承諾はなさるまい。

市長

いや〜、どうかして御拒絶にならないやうにしたいものです！

バッキ

迎も駄目でせう。………

ケーツビー 又出る。

どうでしたな？ 何と仰せられたな？

ケーツ

閣下、公爵には、一體何の爲に貴下がたが多勢の市民を伴れて爰へお出で
 になつたか、前以て何のお知らせもなくして、談したいとおつしやるのは何

バッキ

事であらうか、甚だ不審だ、と申されまして、何か身に害でも加へられるの
 ではないか、と疑つてをられるやうに見えます。

害を加へるのではないかといふお疑ひを蒙るのは心外です、とんだこッ
 た、全く愛敬し奉るの餘り参上したのだ。……もう一度往つて、その通り、
 申して下さい。

ケーツビー 心得て入る。

敬虔な宗教の信者たちが、珠数を爪繰つてをられる場合に、それを中止さ
 せて、引張出すのは困難なことです、全く一心不亂なのですから。

此うちがロースター、左右に博士シヨールと清僧ベンカーとを従へ
 て、高き處に現れる。同時にケーツビーも戻つて来る。

市長

あゝ、あそこへお出ましになりました、僧官二人を左右になすつて！

バッキ

まことに。あれこそ、基督信者の君をして假にも虚榮の淵に墮落せしめ

まいための、二本の美德の支柱とも見られますわい！ 御覽なさい、お手には経巻をお持ちです、あれが聖者の聖者たる明證です。……(グロースターの方を仰ぎてうやくしく) プランタジネットのお嫡流として、名譽高き御方、なにとぞ吾々どもの請願を御聽許下されますやう！ また、基督信者として御熱心なる御勤行中をお妨げ申し上げたる段を、ひとへに御容赦下されたうございませう。

グロ― (しづかに溫和に) バッキンガムどの、其お分疏には及びません。むしろわたしの方からこそお詫びをしなければなりません。ちようと神にお仕へ致しつゝある最中であつたので、足下達がわざわざ訪ねて来て下されたのに、失禮をしました。が、それはそれとして、一體どういふ御用です？

バッキ そのお願ひと申すのは、上は神明も御満足になり、下は此主治者のない島國一圓の良民共の此上もない歡喜と信じまする所の儀でございませう。

グロ― 實は、内々、若しやわたしは、何か自分では心附かないでゐて、市民たちには不快を與へるやうな過失をしたのではないか、で、それを譴責するため、一同が來られたのではないか、と心配をしてゐる。

バッキ いかにもお過失がございませうです。失禮ながら、吾々共の懇願をお容れ下さいますして、それをばお改め下さいますでせうか？

グロ― 過つて改めないやうなら、基督敎國の民とはいはれない。

バッキ では、申し上げますが、閣下はプランタジネット正系のお嫡流でいらせられ、御宿運の上からも、お權利の上からも、最上の御位に、國君たるの王座に、お即きあらせるべき筈でございませうのに、其御先祖傳來の大切なお天職を見すく汚はしい不潔な血統へお引渡しあるといふのは、お過失でございませうまいか？ 閣下があんまり御温厚に、お眠り遊ばしていらせられる間に……其お眠りを國家の爲に、只今驚かし申すのですが、……我英

國は、言は、正統な手足を失くしてしまつたといふ體です。面は侮辱の烙印で汚され、王室の幹は素性の賤しい雜木で接がれ、國を擧げて闇黒な忘却と廢滅の深淵に投落されようとしてゐるのでございます。それを救ふために、わたくし共は切に懇願いたします、閣下が此際進んで、國王とならせられて、此國を統治遊ばさるゝの任にお當りにならんことを、攝政とか、後見とか、代理職とかいふ他人の爲の雇はれ人同様の職掌ではなく、累世嫡々の御權利として、全く御自身のお天職として。すなはち、其正當なお願ひの爲に、深く閣下を愛敬し奉つてをりまする市民ら一同と共に、彼等の熱烈な希望に促されまして、是非とも閣下のお心を動かし奉らうとて、かやうに推參いたしましたのでございます。

グロー

(徐るに) わたしは、此際は、何にも言はないで足下達に別れた方が當然か、又は、足下達を厳しく叱り付けた方が當然か、孰らが、わたしの位置や足下

達の身分から考へて見て當然であるかを決しかねる。假に、何にも言はないとする、と足下達は、或はわたしを大野心があるから黙つてゐるのだと解するかも知れん。答へないのは、今足下達が、甚だ不條理にも、わたしに負はせようとしてゐる其國王職といふ金の輓を、内々わたしが負ひたい氣になつてゐるのだと解釋するかも知れん。かと言つて、若し足下達の此請願を非難することになると、もとくわたしに對する深い好意からせられたことであるから、信友を辱しめることになる。だから、寧ろ物を言つて、前者たることを避け、又意見を述べながら、後者たることを免れるために、斷然斯うお答へする。・・・足下達の深切はかたじけない。けれどもわたしは逆もそんな徳はないのだから、辭退する。先づ、第一に、たとひ一切の障礙が除かれて、王冠がわたしの當然の權利として手に入る物となつたとしても、わたしの人徳が甚だ貧弱であつて、缺點が非常に夥しいのだから

ら、到底大海の波濤には堪へ得ない小舟なのだから、生中顯榮の地に憧れて其光榮の蔭に立つて、其蒸氣に噎せ返つて、息の根を止められるよりも、薄暗いところに身を僣めてゐたい。併しながら、神のお加護で、幸ひにわたしの出る必要はない。よし有るにもせよ、わたしでは、逆も用が足らん。我王統の幹に王の實が生つてゐるこそ幸ひ、今はまだ青いが、目に見えぬうちに月日は經つ、やがて王座に据ゑて恥かしくない程に熟する時が來れば、きつと國民を安堵させるに相違ない。わたしは足下達がわたしに有たせようとする、其貴い權利や幸運は、是非とも彼れに有たせたい。彼れから奪ふなどといふことは、神よ、護らせたまへ、とんでもないことだ。

バック

御前、さう仰せられますのは、閣下の御細心の御斟酌と心得ますが、とくと一切の事情を考へ合せますと、さういふ御斟酌は、全く御無用にならうと

存じます。閣下は、太子エドワードどのを閣下のお兄上のお子だとおつしやる。わたくし共も然う申し上げてゐます。ところが、故王の御正室たるお方は然うはおつしやいません。と申すのは、故王は最初ルーシー姫と御婚約になつたのでした、……それは御母公ヨオクの老夫人さまが生きた證人でいらせられます。……其後、お代理を以て、改めて佛蘭西王のお妹君のポーナ様ともお婚約をなさいました。然るところ、其お二方をば除物として、さるやくざな女の訴訟人が、ふいとあの多情な故王のお目に留まりました。それは、もう既に多勢の子供を生んで、怖ろしく世帯じみた、浮世の苦勞で色香も何も褪め果てた寡婦で、人生の黄昏方といふ女なのでしたが、すつかり故王のお心を籠蓋して、卑しむべき、嫌はしい再婚をおさせ申して、其不正な結婚の結果、其腹に出來たのがあの王子エドワードで、吾々共が王子と呼ぶのは禮儀上たるに過ぎないのでございます。

まだ此上にも申し上げ得ることがございますが、それは尙御存生の或お方への遠慮がござりまして、故と差控へます。閣下、さういふ次第であります以上、わたくし共が獻げます御天職を、何等お受け遊ばされますやうにいたしたうございます。たとひ吾々共や此國土の事は、御眼中にないにもせよ、由緒の正しい御王統が、汚はしい、世を欺く邪系に陥らうとしてゐるのを救ひ出しになるためになりと、お受け遊ばすやうにいたしたうございます。

市長

市民一同の懇願にございます、どうかお受け遊ばしますやう。

バッキ

かほどまでに申すのでございます、どうか御辭退遊ばしませんで。

ケーツ

お、御前、彼等を喜ばしてお遣し遊ばせ！ 正當な請願でございます！

グロー

(迷惑げに) なぜ足下達は、そんな迷惑なことをわたしに強ひるのです？ わたしは、國家の統御なぞといふことは、全く不適任なのだ。どうぞそんな

思ひちがへをして下さるな。其望みに應ずることは、わたしには逆も出來もしなければ、應じようとも思はん。

バッキ

どうしてもお聽入下さいません場合には、お兄上のお子でもあり、幼年でもある者を排けるに忍びないといふ御仁心から、又、豫て手前らの存じをる柔らかな、やさしい、御近親はもとより、實にあらゆる階級に對して御深切な、女性のやうな御慈愛心から、どうしてもお聽入がないとなると、手前は、もはや餘儀なく、他の血統を以て王座に接木せざるを得ません、……お諸否に拘はらず、故王のお子には王冠を獻すまいと決心したのですから、……すれば、取りも直さず、お血統のお恥辱ともなり、又滅亡ともなりまするぞ。斯ういふ決心をいたして、わたくし共はお別れします。……さア、みなお歸りなさい。誓言！ なに、もう、歎願なんかするもんか！

バッキンガムわざと憤然として土を蹴つて先に立つ。
グロー おゝ、バッキンガムどの、誓言をなさるな。

バッキンガム 入る。市長及び市民の大多數つゞいて入る。少数はケイツビーに止められて残る。

ケイツ (ケロースターに) もし、御前、お呼び戻し遊ばして、願ひを聴いておやり遊ばせ。

一市民 御前さま、どうかお聴入下さいませ、全国の歎きとなりますから。

グロー (餘儀なげに) お前たちは如何してもわたしに迷惑な務をさせようといふのか！ では、呼び戻すがよい……

残れる市民二三人急いで呼戻しに行く。

わしは無感覺の木石ぢやないから、お前たちに然う深切に歎願されると、つい良心にも、靈魂にも背かざるを得ない……

此うちバッキンガムをはじめ市長ら戻つて来る。

バッキンガムどのをはじめ賢明な故老たち、足下達が、否でも應でも、わたしに運命の重荷を、縛りつけても、負はせようとなさるのだから、是非に及ばない。承諾しませう。しかしながら、若しこれが爲に、甚しい誹謗や惡意の批判を蒙つた場合には、あれは全く強ひて承諾させたのであるといつて、不潔な汚點を足下達が押拭つてくれねばなりませんぞ。わたしには、毛頭そんな欲望のないことは、神はもとより御存じであり、足下達も粗知つてゐることであるから。

市長 神よ、閣下に福ひを下させられませ！ わたくし共は十分承知いたしをります。はい、其通りに申します。

グロー さう言つてくれて、而もそれが全くの有りのまゝ事實なのだ。
バッキ では、國王の御尊號を以てお祝し申します……英吉利國王リチャード陛下

萬歳！

市長
市民ら アーメン！

バッキ 御即位式は、明朝ではいかゞにございませう？

グロー 望みとあれば、いつでもよろしい。

バッキ では、明朝拜謁いたします。さて、われ〜一同大喜びで、お暇乞をいた
します。

グロー (僧官らに、しづかに) さ、又勤行にかゝりませう。… (バッキンガムに) さやうなら。

… (市長らに) はい、さやうなら。

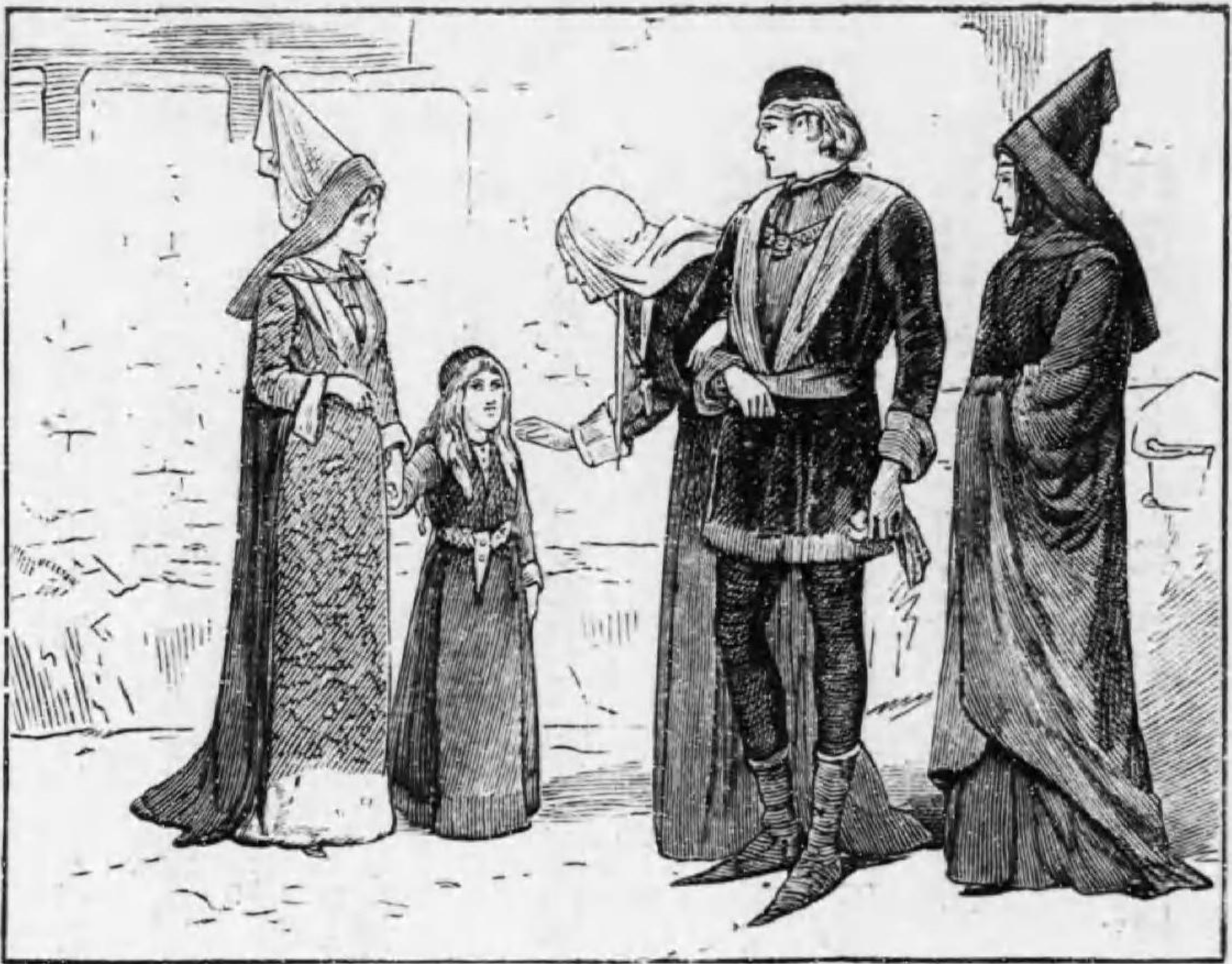
皆々入る。

* * * * *

第四幕

第一場 ロンドン城の前

一方よりは妃エリザベス
及びヨオクの老公爵夫人
とドオセット侯とが出る。
又一方よりは今はクロ
スター公爵夫人となつ
たるアンが、カラレンスの
末女マーガレット・プランタ



シエネット姫を伴れて出る。

老夫人 お、だれかと思つたら？ 孫のプランタジエネットの姫ちや、グロースタ
ーの叔母に深切に手を引いて貰うて？ 必定々々、あの可愛い王子たちに
會ひたさに、全くの情合から、此城へ彷徨うて來たのであらう。……女よ
いとこで逢ひました。

アン お、神さまが貴女がた御一同に、嬉しい、楽しい今日をお興へ遊ばします
やう！

妃 義妹どの、あなたにも同様に！……どちらへ？

アン つい此城まで。こゝにお在の王子がたへ御祝儀を申しに來ました、多分
あなたも、御忠誠なお心から、お出なされたのであらうとお察し申し
ます。

妃 御深切に有りがたう。ちや、一同一しよに入りませう。……

城預りの役人 アラッケンベリー！出る。

お、ちようど好い處へ、監督官が來ました。監督どの、卒爾ですが、訊ね
ます、太子やヨオクの公爵は如何してをられます？

ブラケ お變りなくいらせられます。失禮ではございますが、お見舞は叶ひませ
んよ。王から嚴重に御禁制の御命令が下りましたから。

妃 (驚いて) 王から！ え、王とはだれです？

ブラケ これは、御免下さいまし！ 攝政さまのことを申したのです。

妃 ま、滅相な、あの仁を王だなんぞとは！ あの仁が王子たちをわたしに逢
はせるなと命じましたか？ わたしは彼等の母です。だれが母たるわた
しをば彼等に逢はせないと言ひますぞ？

老夫人 わしは彼等の父親の實の母でござる。

アン わたしは、法律上からは、王子たちの叔母に當る上に、愛情の誠からは、母

も同然の身であります。だから、王子たちの前へ案内してください。若しそれが越度になつたら、一切の責任はわたしが負ひます。

婦人連強ひて進み入らうとするを止めて

ブラケ いゝえ、奥方、いゝえ。さういふわけには参りません。御誓言で縛られてゐますのですから、

と言ひすてゝ入る。

スタンリー出る。

スタン お三方、一時間後におきまして、更に改めてお目にかゝるでございませう、
其際には、ヨオクの老公爵夫人をば、お二方の御母公として、又、お二方な
がらお妃とお名宣りになるのを御覧になるお方としてお祝ひ申すことにな
るでございませう。……(アンに) さ、奥方、あなたは直にウエストミンスタ
ーへいらつしやらねばなりません、あそこでリチャード王のお妃として御

妃 戴冠遊ばすのです。

(驚いて) お、此胸飾を裂つて下さい、此心臓に波を打つ餘地が與へたい！
さうでない、わたしや悶絶してしまひさうだ。ま、何といふ怖ろしい知
らせだらう！

アン ま、何といふ厭な、汚はしい知らせだらう！ お、ま、不快な知らせ！

ドオセ (悶え歎く妃を介抱しつゝ) しつかりなさいまし。お母さま、え、いかゞでござい
ますり！

妃 お、ドオセット、わたしに物をお言ひでない、早くこゝをお逃げ！ 死と
破壊がお前を追つかけてゐます。此母さんの名は、子供たち一同の禍ひ
なのです。若し幸ひに命が助かつたら、海を越して、佛蘭西にゐるあの
リップチモンドの許へ往つて、地獄の鬼から遠ざかつておいで。さア、早く、
此屠殺所からお逃げなさい。ぐづくしてお在だと、一人だけ死ぬ者が

殖えることになりませう。わたしはあのマーガレットどの、呪ひの奴隷になつて死にませう、母でもなく、妻でもなく、英吉利王の妃では、勿論無

スタン お妃、あなたの其お指圖は、全く賢明な御配慮だと存じます。(ドオセットに)

一刻も早く、機おくれにならんうちに、御出立なさい。倅ヘンリー(リッチモ

ンド)へは、豫め手前から書面を遣しまして、途中までお迎へに出るやうに

命じませう。うつかり躊躇なすつてゐて、捕はれの身とおなりなさるな。

老夫人

(天を仰いで歎息して)お、肉親の者を四散にする不幸な風! お、わしの此

お胎は、死の臥床も同然、あ、呪はしいく! お、おのれめが大悪龍

の卵を孵して、世の中へあばれ出させたのちや、一目で人を殺すといふ大

悪龍をば!

スタン (アンに)さア、奥方。手前は、大至急を以てお迎へ申して参るやうにと

仰せ附けられて参つたのでございます。

アン

(餘儀なげに)わたしはまた、大不快を抱いて迎へられて行くのです。此額

に纏はせねばならん其金の輪が、寧ろあの弑逆罪の罪人を罰するのに用ひ

る赤熱の鐵の輪であればよい、と神さまに祈ります、此腦髓をば焚爛らし

てしまひたいから! 聖油の代りに、怖ろしい毒を身に塗つて、人民ども

が「妃殿下萬歳!」を唱へないうちに、死んでしまひたい!

さ、さ、早くいらつしやい。わたしは決して貴女の出世を羨しいとは思ひ

ません。わたしの氣をかねて、そんなことをいふには及びません。

いふには及びませんで? ま、どうして?…今度夫になるあの男は…

わたしが、過般、故ヘンリー王の御葬儀を營まうと思つて、泣く泣くお柩に

附添つて行きますと、あの男が…まだあの聖者のお遺骸や、天使のやう

な、わたしの先の夫エドワードの死骸から流れ出た其血のまだ乾きもしな

い位の手をしてゐるあの男めが、お、臆面もなく、のめくくと出て來をつて、……お、其面を見た時の悔しさ！ わたしは其時から斯う心で祈りました。「おのれ、こんなに年の若い子をば、末長う寡婦にならせをつた憎い、悪黨め！ おのれが結婚しをる時には、其間には、悲みばかりが附き纏へ！ おのれの妻となるやうな、そんな狂ひ女があるならば、おのれが子の大切の夫を殺しをつたゝめに、子が惨な身となつたとは反對に、其女は、おのれが生きてゐるために、惨な身となりをれ！」と。あ、其同じ呪ひをば、もう一度とは言ひ得なかつたうちに、そんな短い間に、あ、情けない、わたしは女の心は、淺臺にも、あの男の蜜のやうな甘い口前に騙されて、自分が自分の呪ひの的になつてしまひました！ それからといふものは、此目の休まつた時はありません、只の一時間でも、あの男の寢床では、楽しい、安らかな眠りの露に濡つたことはありません。と言ふのは、毎晩

妃

あの男が怖い夢を見て魔れるので、起されるからでござんす。それにあの男は、父ウオーリックとの關係上、わたしを憎がつてゐますから、きっと、程なく、わたしを殺すでせう。

アン

可哀さうな人！ つくづくお氣の毒に思ひます。

妃

わたしもまた、つくづく貴女をお氣の毒に思ひます。

アン

泣きながら立派な身分にお成りのお前さん、御機嫌よう！

老夫人

(ドオセツトに) お前さんは、早くリッチモンドの許へお出でなさい。あ、どうか好運でございますやう！……(アンに) さ、お前さんはリチャードの許へ、天使たちがお前さんをお護り下さるやうに！……(妃に) お前さんは聖院へ。専念に後世をお祈りなさい。……わしは又墓場へ、平和と安息を求め

つゝ！ あさましい八十餘年を送りました。其間に、稀に逢ふ只た一時

間の喜びは、忽ち續く一週間の悲みに打毀されるのが常であつた。

老夫婦、アン、ドオセットら泣きつゝ立出てようとする。

妃

(止めて) ま、お待ちなさい。わたしと一しよに、もう一度城の方を御覽なさい。……(城壁を見上げて) あゝ、汝年を経た石の城よ、汝の其石壁の中に、惡意の爲に、幽閉められてゐるあのいたいな子供らを憫れんでくれ！ あんな、小さい、可愛い子供らを、如是な、荒々しい搖籃に臥すとは！ 優しい王子たちの乳母としては、遊び相手としては、粗暴な、吝い、陰氣な石の城よ、あの子供たちをいたわつてやつてくれ！ 涙に暮れながら、愚かな母が暇乞をします。石の城よ、さやうなら！

皆々打しほれつゝ入る。

第二場 ロンドン 王宮

リチャード 王冠を戴いて盛装して出る。バッキンガム、ケーツビー、侍童及び其他侍士多勢出る。(以下、クロスター公爵をリチャード王と呼ぶことにするので、白の肩書は單に王と記すことにする。)

王 (侍者一同に) みんなずと離れてをれ。……バッキンガムどの！

バッキ は、大君？

王 手をお貸しなさい。……(と握手する。此うち音楽始まる。リチャード徐かに設けの王座に上る。) 足下の忠言と助力によつて、先づ斯う高い處へ、リチャード王が着

座することになつた。が、此光榮は、そもく只一日限りのものとすべきか、又は永久に享樂すべきものとして慶賀すべきであらうか？

バッキ 勿論、永久に御享樂あらせらるべきでございます！

王 お、バッキンガム、ではわしが試験石の役廻りをして、足下が果して醇な金貨だかどうかを試験して見よう。……あの幼さいエドワードがまだ生きてゐる。それに就いて、わしの言ふことを聞いて考へて貰ひたい。

バッキ どうぞおつしやつて見て下さい。

王 外ぢやアないが、バッキンガム、わしは王になりたいと思ふんだ。

バッキ 現にお成りになつていらつしやるぢやございませんか？

王 (わざと驚いた體で) えッ！ 王に成つてるのかねえ？ あ、成程。けれども……衆人が正統の嗣だと思つてゐるあの……エドワードが生きてゐる。

バッキ はい、いかにも。

王 いかにも?! 衆人が正統の嗣だと思つてゐる、と言つた後へ、足下にまで

「いかにも」と言はれらや、堪らなく不快な感じがする！……おい、足下は如是なに鈍ぢやなかつたがなア！ 露骨に言はう、おれはあの私生兒どもを生かしておきたくないのだ。さうして、それは、急にやつて貰ひたいのだ。足下はどう思ふ？ すぐに返辭をしてくれ。簡單に。

バッキ 御意次第に遊ばしませ。

王 たッ、たッ！ 足下は宛然氷塊だ！ 足下の深切は既う凍ツちまつたね。……

奴等を殺すことは足下も賛成なのかい？ それを聞かう。

バッキ 少々の間御猶豫を、暫時お待ちを願ひたうございます。確乎たる御返辭を程なく申し上げますから。

バッキンガム 入る。

王 じつと其後影を見送る。

ケーツ (傍らの一侍者に向つて) 王は御立腹の體だ。御覽なさい、唇を噛んでお在だ。

王 (むしやくしやしなから) 寧ろ冷酷な馬鹿者共や向う見ずの小僧共に相談しよう。思慮の有り過ぎる目でおれの腹を窺つてゐるやうな奴は入用でない。野心満々のバッキンガムめ、怖ろしく警戒ぶかくなりやアがつた。…侍童!

侍童 御前!

王 汝の知つてゐる者で、金といふ賄賂をやりさへすれば、どんな暗殺でもしようといふ奴はゐないか?

侍童 御前、貧乏の癖に、非常に高慢でございます爲に、始終不平ばかり言つてを

王 ります一人の武士がございます。其男になら、金が二十人の辯士以上の働きをいたしまして、どんな事でも必定させることが出来ます。

侍童 そいつの名前は?

王 チレルと申します。

王 あいつか、おれも粗知つてゐる。すぐにこゝへ呼んで來い。

侍童 入る。

(獨りうなづいて) 考へ込んでばかりゐるあの狡猾者のバッキンガムは、もうおれの相談相手にやしないことにしよう。疲労れないで、随分長い間くつついて來たづけが、今になつて、息休めを始めやがつた。…

スタンリー 軀出る。

どうしたね! 何事が起つたのか?

スタン 御前、ドオセット侯が、あのリッチモンドの居ります海外の地へ出奔せられたと承はります。

と言ひ了ると、すぐに退いて控へる。

王 ケーツ、ピー!

ケーツ 御前?

王 妃のアンが重患で危篤だといふことを、世間一般に申し觸せろ。特に法を講じて、彼女を人目に觸れさせんやうにするから。それから身分の賤しい武士を一人探して来てくれ、それへ早速クラレンスの女を嫁入らせる積りだから。兄の少年の方は馬鹿だから、心配はない。……おい、夢を見てのちやいかんよ！ 可いか、改めて言ふぞ、妃のアンが重患で、危篤だと言ひ觸らすんだ。さ、早くしろ。おれに取つては大關係のあることだ、有害な希望を長ぜしめないうちに、根を絶つちまふのは、

ケーツビー 心得て入る。

亡兄(故エドワード四世)の女と結婚をせにやならん。然うせんと、おれの王國は脆い硝子の上に載ツかつてゐるといふ爲體だ。弟どもを殺しておいてさうして其姉娘と結婚するといふのは、大ぶ際どい遣り口だ！ けれども血の中へ踏入んだ以上、罪惡が罪惡を突つき出すのも止むを得ない。涙

ぼたくの憐憫なんかは、おれの眼中にや住んでゐない。……

此うち侍童、チレルを伴れて出る。

汝がチレルか？

チレル ジェームス・チレルでございます。どんな御用向でも勤めます。

王 きつと然うか？

チレル どうかお試しなすつて下さいまし。

王 おれの身方の者を一人殺して貰ひたいのだが、必ずやるといふ決心が出来るか？

チレル へい、やります。ですが、どつちかと申しますと、敵を二人の方が上等でございます。

王 ちや、恰ど汝の望み通りだ。實は重大な敵なのだ、おれの平和を破り、おれの安眠を妨げる二人の仇敵を始末して貰ひたいのだ。と言ふのは、チ

レル、城内じやないにあるあの二人ふたりの私生兒しせいじのことだ。

チレル 自由にじゆう近寄ちかよれますやうにさへなすつて下くだされれば、忽たちまち其御心配そのごしんはいのないやうにいたします。

王 小氣味こきみのよい聲樂うたを聞きかせる奴やつだ。おい、こゝへ來こい、チレル。……(チレル王の前に跪ひざまぐ。王指輪やまがわをチレルに授たまげる。)これを證券しやうけんにしる。起たつて耳みみを貸かせ。

(チレル王の傍かたらに立つ、王耳みみこすりをするこゝろあつて)な、それっきりだ。かしこまりましたと言いへば、以後いじ可愛あいがつて立身りつしんさせてやる。

チレル かしこまりましてございます。

と會釋あしやして行きゆかける。

王 やい、チレル、就眠ねる前に返辭へんじが聞きけるか?

チレル お聞きかせ申まをします。

チレル 入はいる。

バッキンガム 又また出でる。

バッキ 御前ごせん、先刻せんこくお申まをし聞きけになりました件けんを篤とくと考かんがへましてございます。

王 あゝ、あれはもう宜よろしい。ドオセットがリッチモンドの許とこへ逃にげたぞ。

バッキ 手前てまへも、それは承うけたまはりました。

王 (スタンリーに)スタンリー、彼あれ(リッチモンド)は汝おまりの伴せがれだぞ。よく取調とりしらべて見みるが可いい。

バッキ 御前ごせん、先頃さきごろ、御名譽ごめいよ並びに御信實ごしんじつを質ちとしてお約束やくそく下くだされました恩賜おんしの儀ぎでございしますが、此際このさい、どうか彼件あれを頂戴ちやうたいいたしたいと存ぞんじます。ヒヤフオードの伯爵領はくしやうりやう並びに、其際このさい、遣つかはすと仰おほせられました彼の動産類どうさんるいをも戴いきたうございします。

王 (それには耳を傾かたけないで)スタンリー、妻女さいむすめに注ちゆう意いをなさい。萬一まんいちにもリッチモンドと書狀しじやうのやりとりを致いたすやうだと、お前まへが責任せきにんを負おはんけりやならん

ぞ。

バッキ 只今のお願ひは正當な儀と存じますが、いかでございませうり。

王 (かまはず、スタンリーに) 記えてゐるだらうが、故ヘンリー六世が、リッチモンドは必定王になる、と豫言をした、まだ彼れがほんの腕白小僧であつた時分に。王に！ 或は、その、或は……

バッキ 御前！

王 (ヤツげり介意はずに) 豫言者先生、どうして彼際言はなかつた歟、おれが傍にゐたのに、おれが奴を殺すだらうといふことを！

バッキ 御前、どうか伯爵領に關しまするお約束の儀を……

王 (尙かまはずに) リッチモンドめ……おれが先だつて、あのエキシターへ往つた時に、あそこの市長が優待の積りで、おれに城を見せて、これはルージモントと申します、と言つたので、おれは思はず悸とした。と言ふのは、曾て

バッキ (アイヤランドの詩人が、おれに、閣下はリッチモンドを御覽になると、お餘命は幾何もなく相なりますぞ、と言つたのを憶ひ出したからだつた。

バッキ (こらへられて、やゝ激して) 御前！

王 (はじめて見返つて) あゝ、何時だね？

バッキ 甚だ失禮ではございますが、過日お約束下されました儀に就きまして、お願がございます。

王 なるほど、が、何時だね？

バッキ ちようど十時を打つところでございます。

王 ちや、打切らせてしまふが可い。

バッキ とおつしますのは？

王 はて、足下は、宛然時計に附いてゐる鐘打人形のやうに、おれの黙想してるところへ、合の手を打込みつけてゐて爲やうがないからだ。けふは、お

れは、人に物をくれる気分になつてゐない。

バッキ では、どうか、お諾否だけを承はりおきたうございます。

王 たつ、たつ！ うるさい。けふはそんな気分ぢやない。

と急に席を起ち、侍者一同を引連れて入る。

バッキンガム 只獨り残り、其後影を睨んで、

かういふ取扱ひをするのか？ あれほどまで忠義を盡したのに、これほど

までに侮蔑して冷遇するののか？ こんな取扱ひをされるために、あの男を

王にしてやつたのか？……あゝ、ヘスチングスの前例がある。あぶなッか

しい首が尙載ッかつてゐるうちに、本城（ブレクノック）へ引上げよう。

入る。

第三場 同 處

チレル 出る。

チレル

暴虐な仕事を爲果せたが、こんな可哀さうな、酷い怖ろしい人殺しは、此國

ぢや、これが嚙矢だらう。金をくれて相棒にして、此慘い人殺しをさせた

あのダイトンとフォレストの奴、狂犬のやうな、情知らずの悪黨なんだが、

まるで融けるやうに柔しくなつて、佛心を起して、あの二人を殺した經歷

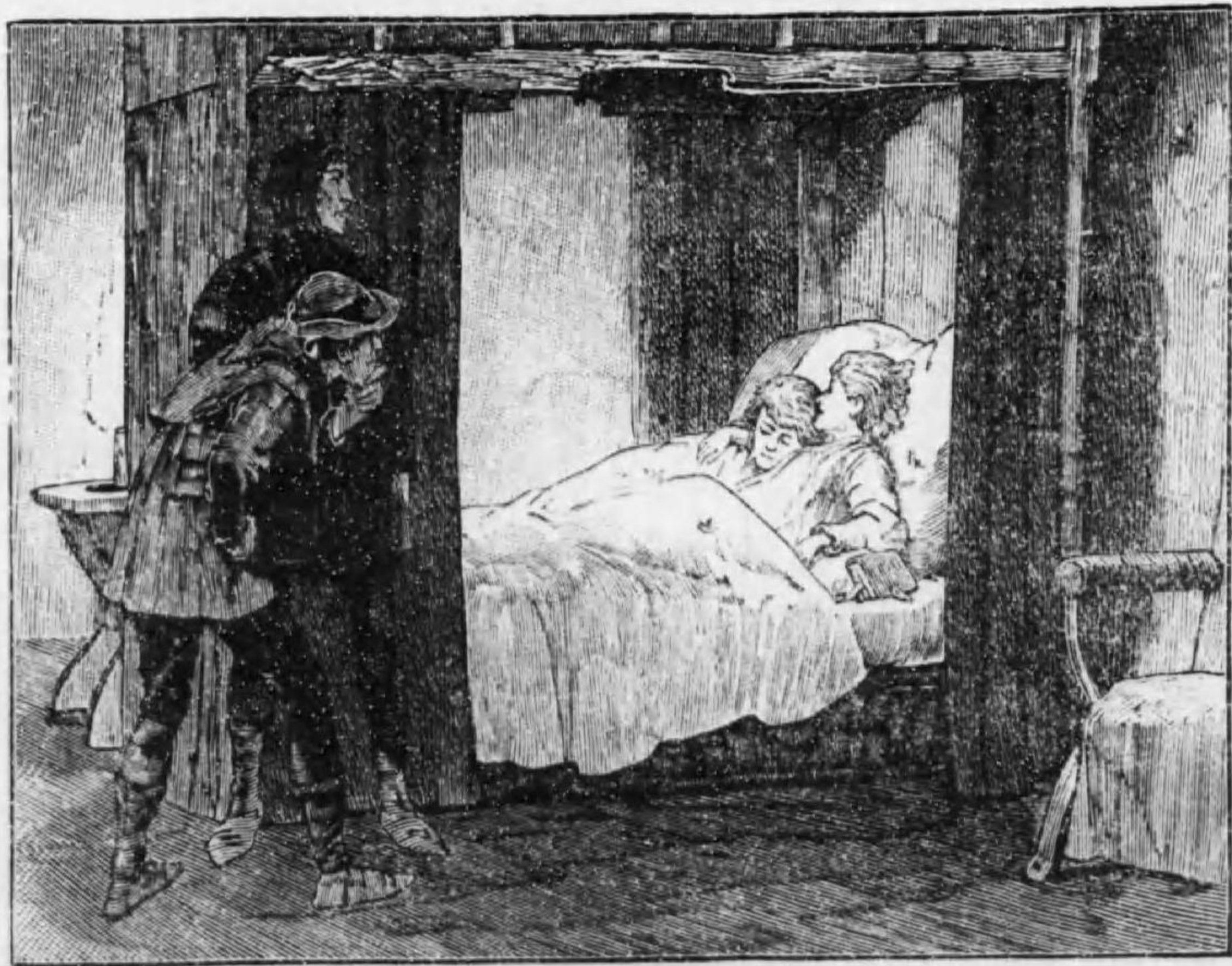
を話すとして、子供のやうに、おい／＼泣きやアがつた。ダイトンが言ふにや、

「ま、こんな風に、あの二人のいたいな赤さんが臥てゐた。」と、フォレスト

めが、「ま、斯う／＼斯ういふ鹽梅式に、お互ひに、無邪氣な、柔ッこい大理石

かと思ふやうな腕を抱き合せてね、と言やアがる。「唇は、まるで、赤い四個の薔薇の蕾だ。それが、初夏の、やつと張らんだばかりの美しさで、互ひに口附をしあつてゐるんだ。枕元にや、お經の本が載つてあつた。それで一度は」とフオレストが言ふ「殆ど助けようかともまで思つたッけが、お！ 畜生、悪魔の奴めが！」

……と野郎、言ひかけて、そこ



で口を噤んでしまつた。すると又、ダイトンが斯う話をつけた。「あ、おれたちア、つまり、造化の神さまが今までに製へさつしやつたうちの、一等立派な、可愛らしいものを締殺してしまつたんだ」と。といふやうな風に、奴等二人とも、非常に後悔して、良心を惱め切つてゐやがるんだ。ろくろく物をすらもいひ得ないんだ。で、二人を残しといひて、俺は、あの酷い王さんの許へ、報告をしに來た。……あ、あそこへ見えた。

リチャード 王出る。

(跪いて) 御機嫌よろしういらせられませい！

王 チレル、御苦勞だつたな。愉快な知らせか？

チレル お命じになりましたことを爲遂げましたのが、御愉快なお知らせになりますなら、お喜び下さいまし、爲遂げましたんですから。だが、死んだのを見届けたか？

チレル はい、見届けました。

王 埋めて来てくれたか？

チレル お城の牧師がお埋しました。どこへ、どういふ鹽梅式に、埋めたかは存じません。

王 チレル、夕食後に直やつて来い。其時に、彼等の死際の模様を聞かうから。が、それまでに、どうしてやつたなら、汝の望みに叶ふか、其註文を考へて来い。……直に又會はう。さよなら。……

チレル 御免下されませう。

チレル 會釋して入る。

王 (考へ込んで) クラレンスの件めは幽閉めてしまつた……女の兒の方は身分の卑い者へ嫁入らせることにしたと……エドワードの子供らは、もう極樂へ往つて、エブラハムの懷で眠てゐる。さうして妻のアンも、もう既に浮

世へ「さよなら」を言ツちまつた。さ、そこで、兄の女の、あの若いエリザベスだが、ブリトンのリッチモンドめが、彼女を嬖にと覘つて、それを縁故にして、威張つて金の冠りへ手を出さうとしてゐやがる。だから、予が先へ廻つて、求婚者と出掛けて、まんまと成功しようといふのだが……

ケーツビー 急いで出る。

ケーツ 御前！

王 吉報か、凶報か？ そんな無遠慮な風でやつて来たのは？

ケーツ 凶報でございます。イリーがリッチモンドの許へ逃げました。それから、バックinghamが慥悍なウエールス人共を後援にして、謀叛しました。其軍勢は追々増加します。

王 イリーがリッチモンドに合體したのは、バックinghamめが暗雲に兵を起したのよりも、氣にかゝるわい。さア、臆病な評議三昧は、遷延といふ優

柔に奉公する鈍太郎だと聞いてゐる。遷延は、無能の、蝸牛式の乞食根性の端緒だ。烈火の如き迅速よ、さ、おれの翼になつてくれ、やい、ジョーヴの使ひ神、國王の傳令使！……さア、兵を召集しろ。おれの軍會議は楯だ。手早くしなくちやいかんぞ、謀叛人めらが既に出陣したから。

リチャード 王を先に皆々従いて入る。

第四場 王宮の前 (或は丘上)

老妃 マーガレット 出る。

マーガ まア、如是な風に、榮耀榮華が熟み切つて、腐つて、死神の口の中へ墜ちはじめた。おれは此土地に、けふまで竊と隠れてゐて、憎いと思ふ奴等の、段

段と衰滅して行くのを見張つてゐてやつた。これで先づ、怖ろしい悲劇の序の口だけを見たら、もう佛蘭西へ往くことにしよう、此後幕は大丈夫、手ひどい、物すごい愁歎場であるに相違ないから。不幸なマーガレット、さア、お退去み。……(向うを見て)だれか来た。

妃 エリザベスとヨオクの老公爵夫人と出る。

妃 (悶へ歎きつゝ) あ、なつかしい幼い王子たちよ！ あ、いたいけな子供らよ、蕾のまゝの、やつと芽を出したばかりの花のやうな子供ら！ やさしい、いたいけなお前がたの靈魂が、まだ此邊を翔びあるいてゐるのなら、歸ることの出来ない永劫の闇の世界へ、まだ住込んでしまつたのではないならば、目に見えない其翼で、わたしの傍を翔びまはつて、お母さんの歎くのを聴いておくれ！

マーガ (蔭にて、皮肉に) 然う、翔びまはりなよ、さうしてお言ひ、お前がたの幼

い綺麗な朝ぼらけが、忽ちのうちに、老いの昏闇と衰へてしまつたのは、因果應報だと言ひ。

老夫人 (悶へ歎きつゝ) 重ねぐの不幸で、わしは聲さへも立たんやうになつた。泣

いてく疲れ果てた此吾は、宛然啞のやうになつて、何にも言へない。プ

ランタジエネットの正統のエドワードよ、なせそなたは死んだのぢや?

マーガ (蔭にて、皮肉に) 其方のプランタジエネットで、此方のプランタジエネットを支

拂つたのだ。そちのエドワードの命でこちのエドワードの命を償つた

だ。

妃 おゝ、神さま、あんな柔しい仔羊をばお見棄遊ばして、見すく狼の口の中

へお投込み遊ばすとは、お情けない、お情けない! あんな酷いことをした

者があつた場合に、神さまが、見すく、それをお助けなさらなんだとが、

いつあつたらう?



マーガ (蔭にて) あつた、あの神聖なヘンリーどのが死なれた時に、おれの大切の子の、あの可愛いエドワードが死んだ時に!

老夫人 あゝ、見えもせぬ目よ、死んだ命よ、惨な生きてゐる幽霊よ、無慚な見世物よ、此世の恥辱よ、墓に入つてゐてこそ當然の假の命よ、長い年月の憂難の覚え書よ、邪曲な所行の爲に、罪の無い者の血で汚れたとは言へ、此英吉利は汝の正統な住み處ぢやによつて、ま、こゝに、其安んじがたい身を休めをれ、こゝより外に住む里はない程に!

と自問自答しつゝ、くづ折れるやうに地上に坐る。

紀 おゝ、住む場所が定められるくらゐなら、寧ろそのこと、此骨を埋める場所を定めて下さい! 生中地の上に休んだりなんかするよりも、わたしは寧ろのこと、此儘地の中へ入つてしまひたい!

と言ひながら、老夫人の傍へ身を抛げるやうにして倒れ

て、

おゝ、こんな歎きをする者が、又と世の中にあるだらうか?

と身悶へして歎く。

マーガ 歎きや悲みも、古いのほど貴い有りがたいものなら(と言ひつゝ、進み出て)おれの悲みこそ、年も上で、先輩だ。おれの悲みは、お前たちのよりもずつと上座に、斯う坐つてよい筈だ。(と驚く二人の上手に坐つて) 悲みにも會合の席といふものがあるなら。これ、おれの身の上をよく見直しておいて、それから自分たちの不幸を算へなさい。これ、おれにはエドワードといふ子があつた、それをばリチャードといふ奴めが殺しをつた。おれにはヘンリーといふ夫があつた、それをばリチャードめが殺しをつた。お前にもエドワードといふ子があつたのを、それをリチャードといふ奴が殺しをつたらう。又リチャードといふ子もあつたのを、それをリチャードめが殺し

をつたらうが。

老夫人 わしにもリチャードといふ子があつた、それをばお前さんが殺しなすつた。又ラトランドといふ子もあつたのを、それをもお前さんが手傳うて殺させなすつた！

マーガ お前には、まだ別に、クラレンスといふ子があつたのを、それをもリチャードが殺しをつたらうが。わたしら一同を死滅の淵へ追ひ落すあの鬼獵犬は何處から生れた？ あの鬼獵犬めは、お前の其胎内から這出しをつたのだ！ 目よりも先に牙が生えて、仔羊を咬殺しては生血を啜りをるあの狂犬を生み落したのはお前だ、神のお製作を破壊して、目が傷んで腐り爛れるまで、數十萬の生靈を哭きわめかせをるあの目ざましい暴君めを生み放しにして、わたしたちをば墓穴の中へと驅立させるのはお前だ！ お、厳正な、公平な、依怙最良の無い神さま、ありがたうございます、ようぞあ

の狂犬めに現在ののお袋の生んだ子供らをば咬殺させて下さいました、さうして其お袋に、ようぞわたくしら同様の慘な目を見させてやつて下さいました！

老夫人 お、ヘンリーの後室どの、わたしらの不幸を見て、勝誇るとはあんまりぢやわいの！ 神さまも御照覽下され、わしは、そもじの不幸を聞いては幾たびも幾たびも泣いたものを。

マーガ (少し和いで) 堪忍しなさい。あんまりの怨めしさに、わしは返報がしたくて、したくてならんのだ。今やッと其望みが叶つたので胸が透く。わしのエドワード(太子)を刺殺したお前のエドワード(クラレンス)は死んでしまひ、もう一人のお前の(と妃に向つて)エドワード(太子)もわしのエドワードの償ひに死んでしまつた。幼さいヨオクの殺されたのは、いはゞ、ほんの景物の添物なのだ、お前のエドワード二人だけでは、逆もわしの立派なエドワー

ドの償ひには足りないからだ。わしのエドワードを殺しをつたお前のク
ラレンスが死んだ上に、其悲劇を観てゐながら止めもせなんだあの姦夫の
ヘスチングスやリヴァースやゾーガンやグレーまでも、みんな時ならん墓穴
へ、息の根を止められて、抛り込まれをつた。たつた一人残つたはリチャー
ド、あの怖ろしい地獄の手間取め、悪魔の代理同然の人畜生め！ けれども
もうすぐに、もうすぐに、彼奴の憫れ無慚な、だれにも憫れられない最期が
来る。地は口を開き、地獄は燃え立ち、悪魔は吠え猛り、聖者は祈り立て祈
り立て、すぐにも彼奴をば、此世から引立てようとしてゐる。お、神
さま、あいつの生存契約をお取消遊ばして、「あゝ狂犬めが死にをつた！」と
わたくしに言はせて下さいまし！

妃

お、さういへば、お前さんが、今に必定、あの徳利腹の毒蜘蛛を、あの穢は
しい僮僕せむしの蝦蟆ひきかへるを、手傳つて呪つてくれ」といふだらうとお言ひだけが。

マーガ

(心地よげに見返つて) わしは、其時に、お前をばわしの幸運の見た目ばかりの
片影ぢやといつた。それから、惨な、空な、晝にかいたお妃殿だといつた。
過去のおれの臍物、後へ怖ろしい遼物が續くの故と昏ます爲の面白げな
先驅、地の底へやがて抛落されるために、わざと空高く持上げられた、さう
して只少しの間、可愛げな子を二人まで有たして貰つた、夢のやうな、息の
やうな、泡のやうな、危い彈丸の的となる燦かな旗のやうな、舞臺面だけの
威嚴の看板、戯談同様の惨なお妃どの！ お前の所天どのは何處にゐる？
お前の兄弟衆は何處にゐる？ お前の子供たちは何處にゐる？ 何を樂
みに生きてゐるのだ？ 今お前に向つて請願をしたり、「お妃殿下萬歳！」
を唱へたりする者が何處にゐる？ 腰を曲げて、お前に追従をいふ貴族共
が何處にゐる？ そろ／＼とお前の後に附廻る群衆共が、今何處に在る？
それやこれやを、胸で残らず繰つて見て、今の身の惨さを思ふがよい。幸

福な妻ではなくて、世にも淺ましい後家、楽しい母ではなくて（とヨオクの老夫人へ科）母であつたのを悔む女、妃ではなくて（と妃を尻目かけて）苦勞を冠りに戴く女、他から哀みを乞はるゝのではなくて、他に哀みを乞ふ女、もとは賤んだ子に今は賤まれ、怖がられた身が他を怖がり、命令した身が、今は他に命令される。天罰は靦面、因果は廻る小車！ 今の身となつてゐながら、過去の事ばかり思つてゐるのは、取りも直さず、其身の苛責だ。いや、おれの位置を奪りをつたおのれだ、おれの歎きの割前をも、ちようど其割で、持つて行きをれ！ 今こそ、長い間此頸に掛けられてゐた、重たい、辛い鞭を脱して、おのしの其高慢臭い頸筋へ、やつと引渡してくれたわい！

……はい、さよなら、ヨオクの後家婆さま。不幸だらけのお妃どの。どりや〜、これからは、お前らの泣くのをば佛蘭西で聞いて笑ひませう。

と心地よげに物すこく笑つて、睨廻しつゝ、行きかける。

妃

おゝ、呪ふことの上手なマーガレットどの、ま、ちよつと待つて下さい、憎いと思ふ敵を、思ふ存分に呪ふ法を教へて下さい。

マーガ

（冷かに見返つて徐かに）夜は眠らずに、晝は食はずに、今の辛さを昔の樂しさに引比べて、殺された子供らを実際よりも可愛かつた、美しかつたと思ひ、殺した奴を実際よりもずつと醜い化物だと思ひ込み、すべて亡くしたものを十倍もよかつたと思ひ〜するうちには、自然と呪ふことが上手になるわさ。でも、此鈍い、わたしの口では覺束ない。お前さんの其鋭い舌で手傳つて下さい！

妃

マーガ 何度も歎いてゐるうちには、おのづと舌が尖つて來て、おれのやうに、相手の腸を突通す。

老夫人

何でまア、不幸な者に限つて、口かしましう、わめき騒ぐのぢややらう。

と言ひすて、マーガレットは入る。

妃 さア、遣る瀬ない心の苦みをば他に傳へるまでの空なわざくれ、跡形もな
い喜びの果敢ない嗣となる責而もの追懐、憂難の何の役にも立たぬ愚癡
ばなし！ 何の役にも立たぬけれど、せめてもの心遣りにはなりますから、
さ、たんと泣きませう、たんと叫きませう。

老夫人 では、黙つてはゐますまいよ。さ、一しよにお出なさい、思ひ切つて酷い
言葉で、二人の可愛い孫を殺しをつた、あの憎い伴の息の根をば止めて
くれう。…あ、あの太鼓は、彼れが來たのであらう。思ふ存分に哭きなさい、
叫きなさい。

喇叭と太鼓の音につれて、王リチャード夥しい兵士を従へて、
出陣の體にて出る。老夫人と妃とは其行手を遮る。兵士
ら色めく。

王 予の出陣の邪魔をするのは何者だ？

老夫人 つかくと前へ進んで、お、何者だとは、おのれ！ 人殺しをしをる奴と知つ
たなら、生れをらん先に、胎内で絞殺して、出陣はさておき、人の世へ出る
のをば邪魔してくれたものを！

妃 (同じく進みて) おのれ、ようも其額を金の冠りで隠してをるなう！ 其額
には、若しも正義が勝つものなら、其冠を被る筈の太子をはじめ兄御や甥
を殺しをつた罪の次第が彫附けられてある筈だのに！ やい、おのれ、大
悪人め、兄御のクラレンスどのをば何處へやりをつた？

老夫人 おのれ、蝦蟆め、慕蛙め、兄のクラレンスは何處へやりをつた？ 彼れの子
供の小ちやいネッドをば何處へやりをつた？

妃 あの深切なヘネチングスやリヴァースやチーガンやグレーをば何處へやり
をつた？

王 (憤激の體で、樂隊共に) 喇叭を吹け、喇叭を！ 非常太鼓を、打てく！ 神聖

な國王を、口ぎたない女どもが悪口するのを、天聽に達しては相濟さんわ。打て！ え、吹けといふに！……

喇叭を吹鳴らし、非常太鼓を打鳴らす。

(妃らに) 靜かに穩かに頼めば聞いてもやるが、で無ければ、此通り軍樂で以て、哭きわめくのを溺らしてしまふぞ。

妃ら鎮まる。軍樂止む。

老夫人 おのしはおれの子か？

王 さやう。神のお庇とお父さんと貴女の力とで生れたのだ。

老夫人 では、肅として、わしの腹立をお聴きなさい。

王 お母さん、わたしは大ぶ貴女に似てるから、かりにも小言なんぞ言はれると、決して肅としちやゐませんよ。

老夫人 まあさ、わしに言はせてくれ！

王 ちや、お言ひなさいだが、聴いちやゐませんよ。

老夫人 おだやかに、やさしく言ひますよ。

王 ちや、簡単に。急ぎますから。

老夫人 そんなに急ぐのかい？ わしはまた、どんなに苦しんで、胸の裂けるやうな思ひをして、先刻から、こゝに待つてゐたか知れんのちや。

王 が、來たから可いちやありませんか、貴女のお心を慰めに？

老夫人 (憤激して) 何のおのれが慰めに！ おのれは此下界をわしの地獄にするために生れて來をつたのちや。生れる當座もわしを苦しませをつたのちやが、頑固な頭から我儘で、剛情で、學問を始めるやうになつてからは、怖らしい、亂暴な、氣の荒い子で、丁年になつては大膽不敵で、向う見ずで、それが年を取つてからは、高慢で、狡猾で、殘忍で、以前よりは外面が溫和になりをつただけに、口と心とは裏表の不信不義、深切めかしては人を陥擠

れるわるだくみ！ おのしと一しよにゐた間に、只の一度だつて、わしが嬉しう思つた時があつたと思ふか、おのれ！

王 成程、たかゞ一度ッきりでせうねえ、（と冷笑して、皮肉に）貴女がわたしを外して、朝の食事を爲に行きなすつた、例のハンフリー時間ね、先づあの時だけでせう。が、それほどわたしの顔を見てるのが御不快なら、さ、さ、早くここを通らせて下さい。……太鼓、々々！

老夫人 まアさ、わしのいふことを聽いてくれ。

王 あんまり酷いことをおつしやるからだ。

老夫人 只た一言ぢや。もう二度とは言はん。

王 よろしい。

老夫人 （改まって）神さまの御裁断で、おのしが、今度の此軍から凱旋しをらんうちに、死にをるか、わしが歎きと老衰とで空しうなるかして、又とは逢ふこと

もあるまいによつて、おのれ、わしの此呪ひを負うて行きをれ！ 戦場で此呪ひが、鎧兜よりも、おのれの心には重たからうぞよ！ ……おれは敵方になつて、おのれの敗北を祈つてくれる。兄のエドワードの子供のあの小さい靈魂も、敵方の勇氣を唆り立て、勝たせうくとするであらう。見をれ、むごい汝は、むごい死様をしをるであらう。おのれには、大きな耻が、生きても、死んでも、附き纏はうぞよ！

呪ひすて、老夫人は入る。

妃 怨めしいのは倍であつても、わたしには呪ふ氣力が無いから、只アーメンとだけ言つておかう。

と言ひすて、去らうとする。

王 ま、お待ちなさい。是非一寸、貴女に話したいことがある。

妃 （怨めしげに見返つて）お前さんの殺したがるやうな王子は、もうわたしには有

りません。リチャードどの、女子はあつても、彼女らは悉皆尼になります、泣いてばかりゐるやうな妃にはなりません。だから、命を奪らうなんぞと覘つて下さるな。

王 いや、貴女は、エリザベスといふ立派な、王女らしい、美しい淑女を有つてゐなさる。

妃

(愕として)それで殺さうといふのですか? おゝ、生かしておいて下さい! 不品行にもさせませうし、顔も見つともなくさせませう。彼女は、わたしが不義を働いて生んだ私生兒だと言ひ觸らして下さい。どうかして、せめて彼女だけは、殺されないやうにしたいから、わたし白状します、彼女は姦夫の子です、王の子ではありません。

王 妃

あの姫を侮辱なさるな。そんな筈はない。命が助けたいから、侮辱します。

王 妃

いや、王女であればこそ、行末が安全なのです。

王 妃

王子であつたればこそ、あの二人は殺されてしまつた!

王 妃

いや、あの姫の生れたのは、全く祥い星のお加護があつたからだらう。

王 妃

彼女の兄が二人まで死んだのは、全く悪い親族のしたことだ。

王 妃

それが運命である以上、是非に及ばない。

王 妃

是を非に曲げる奴が運命を司るから、あゝいふことになる。あんなこと

王 妃

にならう筈はないのだ、汝がもう少し善人なら!

王 妃

どうやら貴女は、わたしが殺してもしたかのやうにおつしやる、坊や達を。

王 妃

え、坊やだつて!!...成程(切齒して)暴虐とも野蠻ともいひやうのない汝の

王 妃

爲に、國をも、王位をも、樂みをも、命をも奪ひとられてしまつたのだ。手

王 妃

を下したのは誰れであらうと、間接に指圖をしたのはおのれだ。おのれ

王 妃

の其石の心で磨ぎ澄さない以上、どんな殘虐な庖刀もわたしのあの仔羊

のいたけな腹は裂かれぬ筈だ。常住の悲みで、猛しい悲みが柔和しうなつてゐなかつたら、此舌で我子の事をいふ前に、此爪で以ておのれの其目を突破つてくれたであらうに！ こんな無慚な目に逢つてゐながら、わたしは、帆も綱具もなくなつた劣等な小艇も同様に、おのれの其岩石のやうな、残酷な胸に打つかつて、只粉微塵になるばかりだ！

いや、わたしは神の冥助で、今度の戦争に必ず勝つ、といふのは、飽迄も貴女や貴女の女さんたちの爲を思つてゐるから。或は氣の毒な目に逢はせたかも知れんが、それ以上に、深切に、爲を思つてゐるのですよ！

まア、(と嘲弄の調子で)どんな深切な、爲思ひの心が、天人らしい其顔附で隠されてゐるんだらう！

あんたの女たちを高い位置へ登らせようと思つてゐるんです。

首斬臺へたらう！

王 いゝえ、此の世では、此上もないといふ名譽の位へ。

妃 (勿論信じてないで)ま、泣いてゐるわたしを嘸す爲に、其譯を言つて御覽。どんな位を、どんな名譽を、子供らにくれることが出来ます？

王 わたしが持つてゐるものは、一から十まで、貴女の女さんに與つてしまふ。わたしの一身も、何もかも。だから、假に、わたしが貴女を種々ひどい目に逢はせたとして、其怒りをも、怨みをも、どうかそれで、物忘れ川の水に流して下さい。

妃 (尙冷笑氣味で)手短かに言つて下さい、で無いと、深切の説明の方が其事實よりも長びきさうだから。

王 では言ふが、わたしは、命に懸けて、貴女の女さんが貰ひたい。

妃 (皮肉に)女の命を賭けて！ 成程、そんなことたらう。

王 と言ふのは？

妃 女の命を賭物扱ひにして、奪らうといふのでせう。彼女の兄二人の命を奪つたやうに。わたしは、命に懸けて、どうかして其禮をいひたいと思つてゐる。

王 さうわるくお取りでは困る。わたしは眞實あの女さんを愛してゐるから英吉利の王妃にしようといふのです。

すると、だれが王になるのです？

無論、夫になる者が王です。

ちや、お前さん？

勿論。……どうでせう？

何と言つて、彼女を説く積りです？

それに就いては、貴女の智慧が借りたい、女さんの氣質を御存じの譯だから。

王 妃 王 妃 王 妃 王

妃 王 妃

わたしの智慧が借りたい？
是非。

(極めて皮肉に)ちや、彼女の弟二人を殺した男を使ひにして、二人の血だらけの心臓に、エドワード、ヨオクと彫附けさせて、それを彼女の許へ持たせてお遣り。多分彼女はそれを見て泣くだらう。だから……むかしマーガレットトどのがお前さんのお父さんにラトランドの血に染つた手巾を送りなすつたやうに、やっぱり手巾を送つて、これはお前の弟の眞赤な血を拭いたのだから、これで涙をお拭き、とお言ひ。それでもまだ色よい返辭をしないやうであつたら、お前さんがした、種々な立派な功績をお並べなさい、彼女の叔父のクラレンスやリヴァースやをかたづけなすつたことや、又彼女が可愛さに、大急ぎで叔母のアンを遠い處へお遣りのことをも。お、戲談ちやアない。そりや無法だ。

王

妃 無法の限りを働いた悪人である以上、生れ變らないで以て、其外に法があるものかね！

王 さういふ無法を働いたといふのも、つまり、あの姫が可愛いからしたのだとしたら？

妃 いやよく嫌ひもし憎みもするだらう、自分ゆゑにそんな無慚なことをした男だと知つたら。

王 だつて、爲てしまつたことは爲方がない。人間は、往々、無分別なことをするが、後に至ると、悔むのです。假にわたしが貴女の息子たちから國を奪つたとしても、それを今貴女の女さんに返して償はうといふのです。

假に貴女の實の子を殺したとして、其代り、貴女の女に子を生ませて、貴女の血統を殖さうとしてゐる。お祖母さまと呼ばれるのは、お母さまと呼ばれるのに、床しきは決して劣らない。孫も、只一桁下るだけで、貴女の

血の餘り、肉の餘りだ。貴女が女さんを生んだ時の其同じ陣痛を女さんがして生んだ子なのだ。貴女の生んだ子たちは貴女の中年の歎きとなつたが、わたしの生ませる孫は、貴女の老後の慰めになる。息子が王にならなかつた代りには、女が妃になる。今更償はうと思つても、出来んことは爲方がない、好意で出来るとは何でもしませう。貴女の息子のドオセットは、悔々もので、心ならずも、今外國に流離つてゐるが、此婚儀が整へば、すぐに呼戻して立身させる。貴女の美しい女を妻と呼ぶ國王は、當然彼れを同胞と呼ぶことになる。又貴女は國王の御母公。此二重の幸福は、以て過去の不幸を償ふに足る。なアに、まだくお互ひにこれからだ。貴女が今日までに流した涙は、光る眞珠となつて戻つて来る、失した幸福に利子が添つて、十倍にもなつて戻つて来る。だから、女さんの許へ往つて、羞かしがるのを、年の功で、巧く説得して、わたしが言ひ寄る前に、ほゞ其

下話をしておいて下さい。其子供心へ、妃の光榮を慕ふ熱望を吹込んだり、若い夫婦中の、言はず語らぬ、甘い樂しさを言ひ聞かせたりなんかしておいて下さい。其中に、わたしは、あの鈍物のバッキンガムの、小謀反を只一打に平定げて、凱旋將軍の閨の中へ姫を迎へて、先づ其勝利の榮譽を分けます、だから、姫は、取りも直さず、大勝利者で、所謂シーザーのシーザーとなるのですよ。

妃 (皮肉に) 何といつたら一等似合ふでせう？ お前の夫となる人は、「お父さまの弟御だよ」といつたものか？ 「叔父さんだよ」といつたものか？ 「弟や叔父を殺した人！」といつたものか？ 此のうちの孰れが、彼女の嫩若い氣にも、神さまの御意にも、法や道にも、又わたしの名譽にも適ふか知らん？

王 此結婚は英吉利の平和の基だとお言ひなさい。

妃 王 妃 王 妃 王 妃 王 妃 王 妃

其代りには、夫婦の間は、死ぬまでも敵同志。

萬民を命令し得る王が歎願するのだ、とお言ひなさい。

けれども、諾といへば、天上にお在の「王の王」が必ずお罰しになるに相違ない。

女としては、此上の光榮はない、とお言ひなさい。

けれども、其光榮の爲に、母は、現に、惨な目を見てゐる！

いつまでも渝らないで可愛がる男だ、とお言ひなさい。

其「いつまで」がいつまで續くだらう？

姫の命の續いてゐる限りは。

さア、其命がいつまで續くか？

壽命のある限り。

何の！ リチャードといふ悪魔の御意の變らない間だけ。

王 妃 王 妃 王 妃 王 妃 王 妃 王

わたしは主君だけれども、姫が可愛いさに、臣下の態度を取ります。
 彼女は臣下だけれど、憎さ悔しさに、お前を主君にはしないといふだらう。
 そこを、何とか、その、巧く拵へて下すつて。
 正しい談判なら、こしらへないのが當然です。
 ぢや、有りのまゝに。
 不正な話だから、有りのまゝに言へば、聞かれたものぢやアない。
 要するに、貴女の理由は、小さい、浅はかなことばかりだ。
 いゝえ、大きく、大きくて深く、迎もく、忘れられない、殺されたあの二人
 のことは！
 それはもうお忘れなさい、所謂死んだ子の齡だ。
 いゝえ、決して忘れない、自分が死んでしまふまでは。
 武士道の守神ジョールジ尊者を誓ひに掛けて……

王 妃

(急に遮つて) そんな汚れ果てた心がさせる、非道な、邪まな誓言が何になら
 う！
 いゝや、實際、全く、神かけて、わたしが今言ふとは、決して偽りではない。
 これが偽りであつたら、此身は立所に滅却してしまへ！ 天も、運命も、
 あらゆる幸福をおれの手から奪つてくれ！ 晝もおれには光を與へる
 な！ 夜もおれには安息を與へるな！ 人間の吉凶を司る一切の星よ、
 おれの爲ること、なすことに反對してくれ！ 若し貴女のあの美しい王女
 に對するわたしの愛情が不純であつたり、行爲に不誠實があつたり、動機
 が不潔淨であつたりしたら！ 此結婚はわたしの幸福であり、貴女の幸福
 でもある。それが調はなければ、此國も、わたしも、貴女も、姫も、其他多
 勢の基督信者共も亡滅衰廢の不幸に陥る。結婚が調はない以上、それを
 避ける道はない。調ひさへすれば、避けられる。だから、お母さま……

と是非呼びたい……どうか、わたしに代つて、わたしの爲に、姫を説いて下さい。過去の事は言はないで、將來わたしが、償罪の爲に盡さうとしてゐる諸點を力説して下さい。國の爲、世の爲だといつて下さい。頑冥な私情に拘つて國家の大計を誤るべきぢやありません。



妃 (決しかれたらしく) どうしてもこれは、悪魔の誘惑としか思はれない。國の爲になる誘惑なら、從ふのが當然です。從ふやうなら、我を忘れたも同然だ。間違つた我は忘れたはうが可い。

妃 子供らを殺されたことは忘れられない。
 妃 身代りを女さんに生ませます、恰どあのアラビヤの靈鳥が、香料の巢で焼
 け死んで、其灰の中から、忽ち生れ變つて出るやうに。
 (すつと態度を變へて) ぢや、どうしても往つて來いといふのですか?
 王 さうして幸福な母后におんななさい。
 妃 ではともかくも往つて、模様は直手紙で知らせませう。
 王 此眞情のキスを姫へ傳へて下さい。……さやうなら。

妃 入る。

(冷笑して) 馬鹿め! とうく折れやがつた。淺はかな、變り易い女
 め! :

ラトクリップ 出る。 ケーツピー おくれて出て、すつと退つて控へてゐる。

(ラトクリップに) どうだ? どんな模様だ?

ラトク 申しあげます、西方海岸へ強大な一海軍が近よりをります。然るに、身方の者は頗る曖昧な疑はしい態度を取りまして、戎備もいたさず、彼等を撃拂はうともいたしませんで、徒らに海岸に集團してをります者が多勢ございます。敵軍の大將はリッチモンドだと存ぜられます。彼等はバックキングの應援を俟つて、上陸しようとして、只今は、海上に浮遊してをります。

王 早飛脚をノオフォルク公爵の許へ遣りたい。ラトクリップ、汝か、ケーツビ一カだ。彼れは何處にゐる?

ケーツ (進みいでて) こゝにをります。

王 (性急げに) 大急ぎで公爵の許へ往つて来い。……(ラトクリップに) 汝はソリスベリーへ往け。あそこへ往つたら……(と言ひかけて急に見返つてケーツビーに) 馬鹿奴! 何をぐづくしてるのだ! 早く往つて来い。

ケーツ 御前、おそれながら、お口上を? 何と申して参りますのでございますか?

王 あゝ、成程。こりや予がわるかつた。……彼れに、すぐさま、出来るだけの強大な兵を徴集して、ソリスベリーへ駆けつけて、予と一しよになれ、と然ういつてくれ。

ケーツ かしこまりました。

ケーツビー入る。と王は、黙つて、何か考へ込んで居る。

ラトク ソリスベリーへ参つて、手前は、何をいたしますのでございませう?

王 (顔を擧げて) なに? 予よりも先へ往つて、何をしようといふのだ?

ラトク 急いで先へ往け、と只今仰せ附けになりました。

王 (氣が附いて) あ、それは止した。考へが變つた。

スタンリー 癪出る。

やア！ 何か知らせか？

スタン お氣に入りさうな吉い知らせではございませんが、申し上げかねる程の凶い知らせでもございません。

王 (性急げに) まるで謎だ。よくもわるくもない？ 手短かに言へることを廻り路をしてゐるには及ばん。改めて聞くが、どうしたといふのだ？

スタン リッチモンドが海上へ出ました。

王 序に沈めちまふと可い。臆病浪人め、奴、海で何をしてるんだ？

スタン よくは解りません、只推測いたしますばかりで。

王 で、推測によるとり。

スタン おそらく、ドオセットやバッキンガムやイリーに煽動されて、王位を請求するため、當國へ攻寄せたのであらうと存じます。

王 (憤激して) 王位が空虚にでもなつてゐるのか？ 大御劍を佩ぶ者がないの

か？ 王が頓死でもしたか？ 統治者が居ないのか？ 生きてゐるヨオク

の嫡々は、予の外にだれがある？ ヨオク系統以外に、英吉利王たる權利のある者が何處にゐる？ 彼奴が王冠請求に來る筈はないぢやないか？

スタン 併し、さうでございませ以上は、如何とも推測が附きません。

王 (皮肉に) ふん、お前の君主にならうとして、やつて來るのでございませ以上は、來る筈はないといふのか？ お前は、謀反をして、彼奴と合體する積りぢやないか？

スタン とんだことでございます。どうかさういふお疑ひのありませんやうに。

王 ぢや、なぜ奴を撃拂ふ準備をしない？ お前の兵は何處にゐる？ 従者は、家來は？ 船から謀反人共を上げるために、今ごろ西方海岸へ往つてゐん

ぢやないか？

スタン どういたしまして。手前の同心の輩は、いづれも、北方へ向つてをります。

王　　へッ！　外方へ向いてるやうぢやア、異心の輩だらう。西に用がある時に北で何をしてゐる？

スタン　まだ何等の御命令も下りませんでございましたからです。お暇を賜はりますれば、速かに同志の者を糾合しまして、何時でも、御指定の場處へ、命に應じて、馳せ参じます。

王　　いや、おのしはリッチモンドと一しよになる積りらしい。おれは信任しない。

スタン　大王殿下、失禮ながら、謂はれのないお疑ひと心得ます。手前は、未だ曾て殿下に對して、不忠不信を働いた覚えはございません。

王　　む。……ぢや、兵を集める。が、好いか、伴のジョージ・スタンリーを殘して往け。おのしの心が變ると、伴の首があぶないぞ。

スタン　お心任せに、手前は必ず忠誠を盡しますから。

スタンリー 入る。

甲の使者 出る。跪いて、

甲使　確實な報告によつて申し上げます。士爵エドワード・コトリー並びに其同胞たる驕僧、エキスターの監督が、其他の者共と同盟の上、目下デブンシャー地方に於て、叛旗を翻しをります。

乙使　御前、ケント州でギルドフォード組が謀反を起しましてございます。毎刻に、同志の者が應援の爲に馳せ加はりますので、勢力がおひく増大いたします。

丙　　丙の使者 出る。入れ代つて跪いて、
御前、バッキンガム公爵の軍隊が……
と言ひかける。先刻から、むしやくしや腹で昂奮してゐ

王

王はこらへかれて、
畜生めら！ 不吉な歌ばかり唱やアがるのか？

と言ひもあへず、前に跪いてゐる丙の使者を打擲す。

丙

馬鹿ッ！ 今度からは、もつと好い知らせを持つて来い。

(尙居處に跪いて) おそれながら、手前が申し上げます御報道は、突然の大雨と洪水との爲に、バッキンガムの軍隊が悉く散亂いたしましたといふことでございます。バッキンガムは、只一人となつて逃行しましたが、更に行方が分りません。

王

(氣の毒さうに) おい、堪忍してくれ。こりや今撲つた療治代だ。……(と財布を投與へて) で、だれか思慮のある者が、あの叛賊めを捉へれば賞を與るといふ布令を出したかり。

丙

はい、さういふお布令が出ましてございます。

丁の使者出る。

丁使

御前、士爵トマス・ロエルとドオセット侯爵とがヨオクシャーで旗を擧げたと申します。しかしお喜び遊ばしませ、敵の海軍は、暴風の爲に散々に相成りました。其後、リッチモンドは、デアンシャーの海岸へ小艇を寄せさせまして、岸に集つてをりました人々に、敵か身方かと問ねましたので、一同はバッキンガムからの援兵だと答へましたところ、彼れはそれを信じませんで、すぐに帆を揚げて、ブリタニーへ歸り去りましたにござります。(勇み立つて) 進發、々々！ 兵備が出来た以上、外敵と戦ふ必要がないのなら、内地の叛賊共を討伐することにしよう。

王

ケーツピール出る。

ケーツ

御前、バッキンガム公爵が捉りました。これは最上等のお知らせでございます。次に、リッチモンド伯爵が大軍をひきゐてミルフォードへ上陸しま

した。これは少々宜しくございませぬが、申し上げざるを得ませぬ。

王　ちや、すぐにソリスベリーへ！（性急げに）こゝでかれこれ言つてるうちに、王位争奪の決戦が済んでしまふかも知れない。……だれか主任者となつてバッキンガムをソリスベリーへ引張つて來い。他の者は、みんな、おれと一しよに進發しろ。

盛んに進軍の喇叭を吹き立てる。皆々入る。

第五場　スタンリー卿の邸宅

スタンリー卿と士爵・クリストファー・ア、スキックと出る。

スタン　士爵クリストファー、リッチモンドどのへわたしの口上を傳へて下さい。

すなはち伴ジョージ・スタンリーは、目下あの残忍な猪の小舎の中に押込められてゐるといふことを。若しわたしが謀反すれば、伴の首は飛んでしまふ。で、今すぐに應援するわけにはいかんといふことを。だが、一體どこにリッチモンドは、今、をられるのですか？

그리스　ウエールスのペンブロークか、ハーフォード・ウエストか、どちらかに居られます。

スタン　既に馳せ集つた名門はだれ〜です。

그리스　士爵ウオーター・ハーバート、名高い武人です。士爵ギルバート・タルボット、士爵ウィリヤム・スタンリー、オックスフォード伯爵、勇敢なペンブローク伯、士爵ジョン・ブランド、それから勇士の一群をひきつけたライス・アブ・トマス。其他、まだ幾らも立派な名ある人々が馳せ加はつてゐます。いづれも直ちにロンドンへと志してゐます、若し途中で戦争がないとすると。

スタン では、御主君の許へお歸りになつたら、どうかよろしく。妃は喜んで王女
 エリザベスとの婚約を承諾せられたといふことをも傳へて下さい。此書
 面をお見せ下されば、手前の肚は了解されませう。……さやうなら。

二人別れて入る。

* * * * *

第五幕

第一場 ソリスベリー 空地

州の刑執行官、斧槍を持つた警護卒を多勢従へて、捕虜となつたパッキングガムを刑場へ引立てさせつゝ出る。(史に據ると、此際パッキングガムは王リチャードに會見を求めたが許されなかつた、蓋しパッキングガムの意は、密かに短劍を懐ろにして居て、卒然跪くと同時に、王を刺さうとしたのであつたらしい。)

バッキ では、王はわたしに會つてくれないのか？

執行官 お許しがございません。お断念めなさい。

バッキ (歎息して) あゝヘスチングスよ、エドワードの子供たちよ、リヴァースよ、グレイよ、ブーガンよ、神聖なヘンリー王どの、お前さんのあの可憐な王子のエドワードどの、又其他、不正非道の讒誣中傷によつて命を失つた人たちは、若し足下達の怨みの魂魄が、尙雲の中にあつて、此有様を見てゐるのなら、返報のために、おれの此末路を笑つてくれ！……(執行官に) おい、けふは衆靈節だらう？

執行 さやうです。

バッキ ちや、衆靈節がおれの一身の終る日だな。エドワード王が在世の時分に、若しおれがあの王の子供らや其妃の一味の者に對して不信實であるやうなら、おれの身に必ず斯ういふ滅亡の日が来るやうに、と祈つたつけが、又、

さういふ場合には、おれの最も信頼してゐる其信友がおれを陥れるであらう、と言つて誓つたつけが！ あゝ、此衆靈節こそ、いよいよ刑の猶豫期限が絶れて、おれの戦く靈魂へ罪惡の應報が降る日なのだ。高い處の大全智者を馬鹿にして、幾度も出放題の禱をしたが、其出放題を大真面目に、願つた通りに、罰として、おれにお降しになる日が来たのだ。神は、斯くの如く、非道な者の持つ劍を、逆に其持主の胸へ向けしめられる。今こそマールガレットの呪ひがおれの頭上へ落ちて来た。「彼奴の爲に胸を裂ける悲みをする時分に、あゝ、マールガレットが然う豫言したつけ、といへ」と彼女が言つた。……(執行官に) さ、さ、おれを恥辱の臺のある處へ伴れて行け。惡は常に惡を得、罪は又、罪相當の報いを得る。

皆入る。

第二場 タンウオース附近の陣營

伯リッチモンドヘンリー(後にチユードア王統の祖ヘンリー七世)、伯オック
クスフォード、士ブラント、士ハーバート及び其他、太鼓手、旗手、兵士等
をひきぬて出る。

リッチ 身方の諸勇士、並びに暴虐の鞭の下に長い間呻吟してをられた信友諸君、
先づ幸ひに、何等の障害にも出逢はないで、斯く内地までも進軍すること
を得ましたが、恰も只今、義父スタンリーから、頗る意を強うするに足る
愉快な通信を受取りました。あの残忍な、憎むべき篡奪者の牡猪めは、
諸君の夏の穀物畠や實る盛りの葡萄園を踏荒し、諸君の温い血を残汁の

やうに鯨飲にし、五臓を抜去つた諸君の胸部におのが剝鉢を製へをつたあ
の汚はしい牡猪めが、聞けば、目下、此島の中央、即ちリースター附近へ參
つてをるとのことです。此タンウオースから、あそこまでは、僅か一日の
道程です。勇敢なる諸君よ、神の御名に於て、勇んで御進發なさい。永
久の平和といふ收獲を得るのは、此一血戦に在るのです。

オクス あの人非人を膺懲する爲に戦はうといふ各人の良心は、優かに劍一千口に
相當します。

ハーバ 彼奴の身方の者も、きつと我軍へ心を寄せるでせう。

ブラン 身方といったつて、只怖れて、據るなく従つてゐるのですから、肝腎の場合
には、却つて離畔してしまひませう。

リッチ すべて我軍の利益です。では、神の御名に於て、進發なさい。正しい希
望は、燕の如く軽捷に舞ひ昇る。王者は、爲に神となり、王者以下の者は

王者となる。

皆入る。

第三場 ボスウォースの平原

此平原の一方より、王リチャード、甲冑に身を固めてノオフォルク公爵、サリー伯爵、其他多勢の兵士を従へて出る。

王　こゝにテントを張れ、此ボスウォースの平原に。……サリー卿、なせ然う鬱
いだ顔をしてお在だ？

サリー　いや、心中は顔色とは異つて、十倍も陽氣なのでございます。
王　ノオフォルク卿……



ノオフ　は、御用でございますか？

王　ノオフォルク、今日は叩き合ひですぞ。え？　然うだらう？

ノオフ　さやうでございます、是非とも與つたり奪つたりをせにやなりません。

王　(兵士らに) さ、そこへテントを張れ、テントを！　今夜はこゝで臥るんだ。……が、明日は何處で臥るか？

ノオフ　……何、かまふもんか！……(ノオフォルクらに) 敵軍の兵數を調べて來たものがあるか？

ノオフ　たかゞ、六七千人かと存じます。

王 ちや、此方は其三倍だといつて可い位だ。加ふるに、王といふ呼聲は金城鐵壁だ、敵の方にや無い物だ。……さ、そこへテントを張れ！……おいおい、あらかじめ戦場の地の利を観測しておかうから、其道に練達してゐる者を呼んでくれ。すべきだけの訓練を十分して、ぐづくしないやうに。諸卿、明日は忙しいぞ。

一同入る。

同じ平原の反對の方より、リッチモンド、士爵ウィリヤム・ブランドン、オックスフォード及び其他出る。兵卒若干出て、リッチモンドのテントを張る。

リッチ 疲れ果てた太陽が金色に沈んだが、其火の車の跡が晴れやかなので、明朝は好天氣と存せられる。士爵ウィリヤム・ブランドン、軍旗は貴下にお任せする。……(侍士に)インキと紙とをおれのテントへ。けふの一戦の方案

を認めて、各將校連の部署を定めて、少い兵員を好い鹽梅に割振ることにしよう。……貴下、オックスフォード卿……貴下、士爵ウィリヤム・ブランドン：それから貴下、士爵ウォルター・ハーバート、貴下がたはわたしと一しよにゐて下さい。……ペンブローク伯爵には御自分の部隊をひきゐて貰はう。ブランドンさん、足下は、伯の許へ往つて、わたしの夜の挨拶を傳へて、明朝二時に、わたしのテントへ來られるやうに、と言つて下さい。(ブランドンすぐ行きかける。)おつと、往く前に、もう一ヶ條……スタンリー卿は、何處に陣取つてゐるか、知らんかね？

ブラン 旗印を見違へたのでございませぬけりや、大丈夫、見ちがへないと思ひますが、敵王の本陣から、半哩かれこれの處に陣取つてゐるのがあの御仁の兵だと存じます。

リッチ ブラントさん、若し危険なしにやれるならば、あの仁へもわたしの挨拶を

傳へて、序に、此極めて大切な書状を渡して貰ひたい。

フラン 一命に懸けて、きつとやりませう。……では、御平穩にお寝みなさいまし！

リッチ 御機嫌よう、カピテン・ブランド。……さ、諸君、尙明日の戦略を御相談しよ

う。テントへ入りませう。風が怖ろしく寒いから。

一同入る。

と他方のテントへ、王リチャード、ノオフォルク、ラトクリップ、ケーツビ

ー其他、出る。

王 何時だ？

ケーツ お夜食時でございます。九時です。

王 今夜は夜食はすまい。……インキと紙をくれ。……や、兜が大層ゆるくなつ

た！……あ、それから、鎧は残らずテントの中へ收れてあるか？

ケーツ はい、收れてございます。準備は、何もかも、整つてをります。

王 ノオフォルク、急いで往つて、足下の持場を固めて、見張を十分注意させて

下さい、番卒の確かなのを選んで。

ノオフ かしこまりました。

王 ノオフォルクさん、明朝は雲雀と一しよにね。

ノオフ 大丈夫でございます。

王 ケーツビー！

ケーツ 御前？

王 傳令使をスタンリーの陣へやつて、日の出前に、兵を持って来い、然うせん

と、伴のジョールジは永闇の盲穴へ落ちるぞ、と言はせる。……酒を一杯注

いでくれ。……時計燭を持つて来とけ。……明日の戦場用に白サリ（乗馬）

に鞍を置け。……投槍は大丈夫か、見といてくれ、あんまり重くない奴を。

……ラトクリップ！

ラトク 御前？

王 汝は、あの陰氣な顔をしてゐるノオサンバランド卿に今日逢つたか？

ラトク はい、あの方とサリー伯トマスどのは、すつと暮れましてから、一々軍隊中をお廻りになりましたして、頻りに兵士連の氣を勵ましておいでになりました。

王 それぢやア可い。酒を一杯くれ。どうも、例のやうに、氣が敏活しいし、何だか心持がよくない。……そこにおけ。……インキと紙はあるか？

ラトク はい、ございます。

王 番兵どもによく見張をさせろ。退れ……ラトクリップ、夜中ごろに、おれのテントへ来て、鎧を被る手傳ひをしてくれ。……退つて可い。

一同入る。王は就眠の支度にかゝる。
他方のテントにはリッチモンド及び其身方の貴族ら、兵士ら

控へてゐる。こゝへスタンリー卿出る。

スタン 好運の勝利がお前さんの其兜の上に止まりますやう！

リッチ 此闇夜の供し得る限りのあらゆる御安樂をと祈りまするお父さん！ お

母さんはお變りはございませんか？

スタン 母さんに代つて祝福します、彼女は始終リッチモンドの幸福のみを祈つて

ゐる。それはそれとして、……時刻が、黙々で、すん／＼経つて、もう東の昏闇が剥げかゝつてゐる。機が機だから、極簡單に。朝は成るべく早く開戦することにして、運を慘烈な必死の一戦に一任なさい。……わたしは、出来れば……したいと思ふことが出来ないのだが……出来る限り、人目を昏ましてゐて、此あやふやな決戦に於て、足下を援けようと思つてゐる。けれども向う見ずにはやれない。見附かると、足下の弟のあの幼弱なジョールジが、其父の目の前で、首を斬られようといふのだから。……さよ

なら。かういふ差迫つた怖ろしい場合には、迎も悠々と懇ろに、一別以來の嬉しさを語り合つてはをられない、平生親友がするやうに。あゝ、神よどうか然ういふ挨拶の出来る日をお與へ下さい！ 改めて、さやうなら。勇敢に戦つて、めでたく成功なさい！

リッチ (諸士を見返つて) 諸君、どうか義父を其陣所まで見送つて下さい。……非常に騒がしいけれど、どうか一睡したいものだ、明日は敏活に飛び廻つて勝利を得なければならぬのに、鉛のやうな眠さの爲に、氣が引立たんやうぢや不可んから。……ぢや、諸君、改めて、御機嫌ようお寝みなさい。

皆入る。リッチモンドだけ残る。

(天を仰いで) おゝ、神よ、あなたの一部將であると自任しをります賤夫の此軍隊に、何卒御恩愛を垂させられますやう！ 御嚇怒の鐵の棒を我兵にお持たせ下されて、非道な篡奪を事とする我敵の兜をば粉塵に打碎かせ下さ

れますやう！ 勝利を得て、御稜威を讚美し奉りたうございます、どうか賤夫をば御膺懲の任にお當らせ下さいまし！ 此目の窓を閉しまするに先だち、起きてをります此靈魂を御手を委ね奉ります。……寤寐ともに、常に御冥助を垂れさせられますやう！

祈りをはると、やがて就眠する。

他方のテント内には、王リチャードが眠つてゐる。こゝへ故へンリー六世王の王子エドワードの亡靈が出る。

亡靈

(眠つて居る王に) 明朝は、おのれの靈魂の上へ、おれが重く乗かつてくれるぞよ！ チュークコベリーで、まだ嫩若いおれを刺殺しをつたことを思ひをれ。だから絶望して死んでしまへ。……(リッチモンドのテントに向つて、リッチモンドに) 喜びなさい、リッチモンド。虐殺された王子らの怨みの魂ひは、みんなお前の身方になつて戦ふから。ヘンリー王の嫡子がお前を勵まして

ゐるぞよ。

ヘンリー六世の亡霊出る。

亡霊

(リチャードに) 生きてゐた時分に、聖油を塗られた子の體は、おのれの爲に蜂の巢のやうに切りさいなまれた。ロンドン城内のあの獄舎での事を、おれの事を思ひ出して、絶望して死んでしまへ！ヘンリー六世が絶望と死とを宣告すぞ！(リッチモンドに) 徳高くして誠實なる者よ、勝利者となれ！お前は王になるだらう、と曾て豫言した此ヘンリーが、眠てゐるうちにお前を勵ましておきます。長く生きて榮えなさい。

クラレンスの亡霊出る。

亡霊

(リチャードに) 明日はおれが、おのれの靈魂の上へ、重く乗ッかつてくれるぞよ！おのれの奸計に罹つて、最期の際に酒樽へ放込まれて息を引取つたクラレンスだ！明朝戦争中に、おれの事を思ひ出せ！きつと劍が切れ

なくなつてしまふ。絶望して死んでしまへ！(リッチモンドに) ランカス

ター家の苗裔、ヨオクの嫡流で冤罪に死んだ者が、お前の爲に祈りますぞ。善天使がお前の軍隊をお守りなさるやうに！長く生きて榮えなさい！

リヴァース、グレー及びゾーガンの亡霊出る。

リヴァー (リチャードに) 明日はおれが、おのれの靈魂の上へ、重く乗ッかつてくれるぞ

よ、ボンフレッドで死んだリヴァースが！絶望して死んでしまへ！

グレー (リチャードに) グレーの事を思ひ出して絶望してしまへ！

ゾーガ (リチャードに) ゾーガンの事を思ひ出して、良心で咎めて、投槍を落してしま

へ。絶望して死んでしまへ！

一同 (リッチモンドに) 目が醒めたら、われ々を殺した疚しさの爲に、リチャードには勇氣がないと思ひなさい。起きて、勝利を得なさい！

ヘスチングスの亡霊出る。

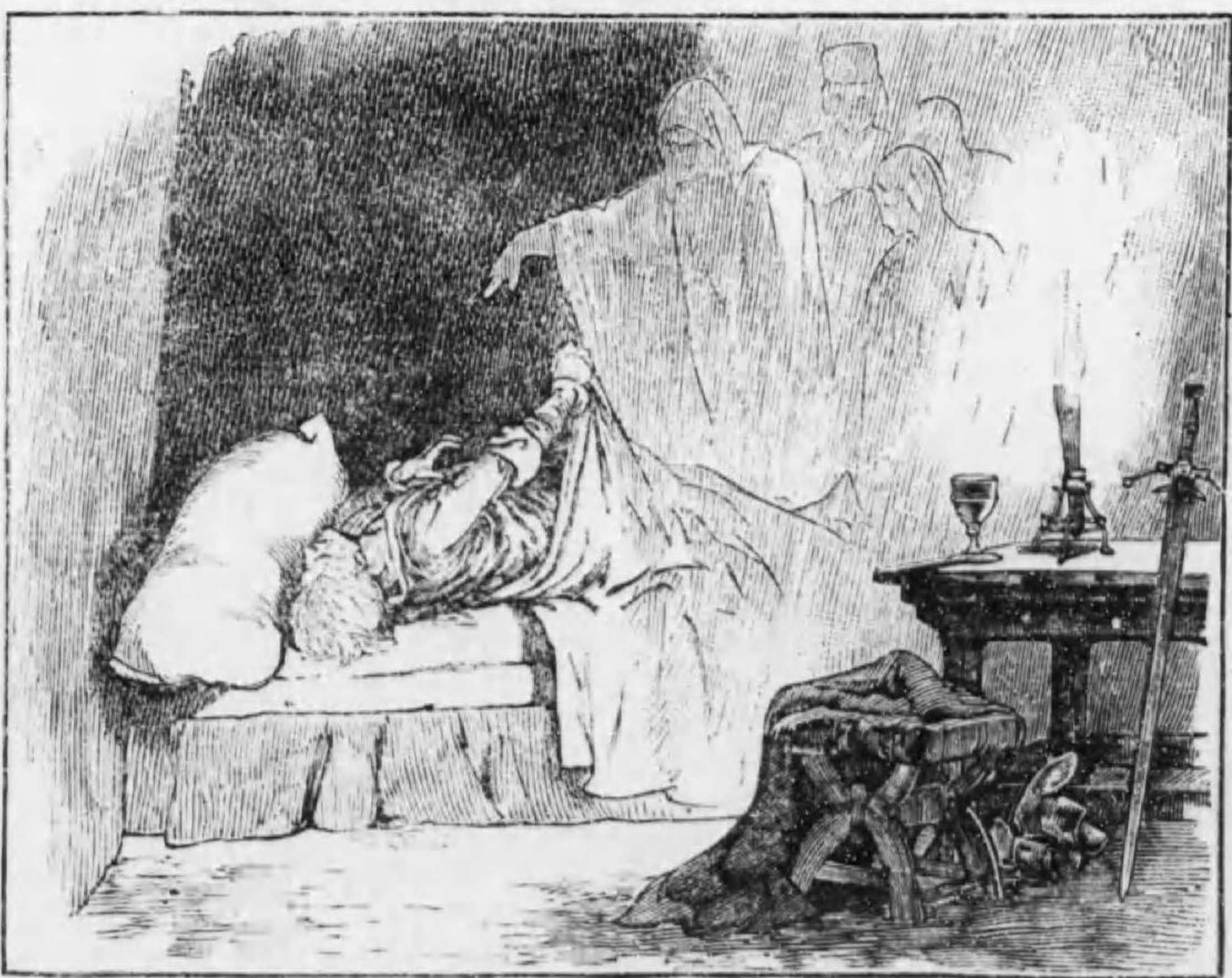
亡霊 (リチャードに) おのれ、非道な、残酷な罪人め、罪を悔みつゝ目を覺して、残酷な一戦で一期を終りをせよ！　ヘスチングスの事を思ひ出して、絶望して死んでしまへ！……(リッチモンドに) 平穩に、安らかに眠つてゐる靈魂よ、起きなさい、起きなさい！　英吉利國のために、武器を取つて戦つて、勝ちなさい！

幼王子二人の亡霊出る。

二亡霊 (リチャードに) ロンドン城で壓殺された二人の甥の夢を見る。やい、リチャード、おのれの其胸の中へ、鉛のやうになつて乗つかつて、恥と滅亡とへ拉ぎ付けてくれるから、待つてゐろ！……(リッチモンドに) お眠り、リッチモンド、たんとお眠り、さうして嬉しい心持で目をお覺し。善い天使がたが、あの猪の害からお前をお守りなさるやうに！　エドワードの不幸な子供らが、お前の榮えるのを祈つてをりますぞ。

アン夫人の亡霊出る。

亡霊 (リチャードに) リチャード、お前の妻の、お前と一しよにゐた間、只の一時も安眠をしたものなかつた不幸のアンが、お前の眠りを斯うして搔亂してやりますぞ！　あした、戦場で、わたしの事を思ひ出さなさい。劍は切れなくなつちまふ。絶望して死んでおしまひ！……(リッチモンドに) 平穩かな靈魂よ、安らかにお眠りなさい。幸



福な大勝利の夢を御覽！ お前の敵の妻が、お前の爲に祈りますぞ。

バックinghamの亡霊出る。

亡霊

(リチャードに)おのれを王位に登らせた第一人者のおれは、おのれの暴虐に命を落した最終者であつた。お、戰場へ出たら、バックinghamを思ひ出して、おのれの罪惡の怖ろしさに悸えて死ね！ 夢を見る、残酷に人を殺した夢ばかり見ろ！ 息も絶々になつて絶望しろ！ 絶望して息を引取ツちまへ！……(リッチモンドに)お前に應援しようと思ひく、おれは死んだ。勇氣を出しなさい、決して駭き怖れるには及ばん。神も天使もリッチモンドにお身方をなさる。リチャードめは、威張つてゐる最中に、斃れるんだ。

亡霊ども皆消える。王リチャード頻りに覺されて譚語を言

ふ。

王

もう一疋馬をよこせ！……傷口を縛つてくれ。……ゼシユー(イエス)お助け

下さい！……(愕然とした體で目を覺す)……や！ 夢なのか！……(四邊を見廻し

てヤツと我に返つて)お、おのれ、良心の臆病者め、又おれを苦しめやがるか！

……燭火が青くなつてゐる。……もう眞夜中だな。身體がぶる／＼慄えて、

ぞつとしたので、一面に冷汗が出てゐる。……一體何が怖いのだ？ 自分

か？ (と一寸四邊を見て)外にやアだれもゐやしない。リチャードはリチャー

ドを可愛がつてゐる。と言ふのは、おれはおれだ。殺人者でも來てるの

か？ いや、やつこい、おれが殺人者だ。ちや、逃げる？ 自分が自

分からず？ どういふわけ？ 返報が怖い？ え、自分で自分を？ あ、

何の、自分が憎い筈はない。可愛い。なぜ可愛い？ 何か善い行ひを積

んで來たからか？ お、そこどころか！ あ、おれは、寧ろ此自分が憎

くツて嫌でたまらない、今までにした種々の嫌なことを懐ひ出すと！ あ

、おれは惡黨だ！……いや、虚だ、そんなことはない。……馬鹿！ 自己を

善く言はうとする。馬鹿、諸ふな。……良心めが百も千も舌を持つてゐやがつて、いろんな事を持ちしやがつて、おれを悪黨だと宣告しやがる。……あゝ偽誓の罪！ 此上もない、偽誓の罪、人殺しの罪！ 此上もない、怖ろしい人殺し！……いろんな度合の、いろんな罪惡めが、みんな一しよになつて、罪人だくと叫き立て、法庭へ群つて來やアがる、氣が狂つてしまひさうだ。……おれを愛してゐる者は一人だつてありやしない。死んだからつて、氣の毒がる者もない。……其筈だ。おれ自身さへも、自分を嫌に思つてゐくらゐだ。……（と煩悶する。やがて少し落附いて考へて）おれが殺した奴等の亡靈が、みんな此テントへやつて來て、明日は返報をするぞ、と威したやうに思つたつけが。……

此時ラトクリップ出て、だしぬけに、

ラトク

御前！

と呼ぶ。リチャードびつくりして思はず躍び上つて、

王

誓言！ だれだり！

ラトク

ラトクリップでございます。手前でございます。村の鶏がもう二度まで夜明を知らせました。お身方の人達は、もうみんな起きまして、身支度をいたしてをります。

王

おゝラトクリップ、おれは怖ろしい夢を見てゐた！……汝は如何思ふ、身方に裏切をするやうな者はゐやしないか？

ラトク

大丈夫でございます。

王

おゝラトクリップ、おれは、どうも、その、氣に掛つてならん、……御前さま、それは御自分で妙な黒い影をお製へになるんです。

王

おゝ、黒い影といやア、先刻いろんな黒い影が出て來やがつた、それが、あの取るに足らんリッチモンドめが十萬人の兵をひきゐてやつて來た以上に

怖ろしかつた。……まだ夜は明けないだらう。さ、おれと一しよに來い。
内々で、各所の陣營を窺つて來よう、逃出す奴があれアしないかを。

共に入る。

リッチモンドの陣營では、ちようど今リッチモンドは起き出でたと
いふ體。そこへ貴族らが出る。

貴族ら お早うございます。

リッチ 失禮。大層お早うござすな。つい晏起をしました。

貴 十分お休みでしたか？

リッチ 全く好い心持に。さうして、まだ曾て見たことのないやうな吉い夢を見
ました。すなはち、リチャードに殺された人々の亡魂が、此テントへ來て、
「勝利々々！」と叫んだと見ました。あんまり吉い夢なので、實際、心が浮
き立つやうに思ひます。……もう何時ですか？

貴 四時を打つたところです。

リッチ では、もう武器を取つて、號令を下しませう。

と起つて、全軍に向つて、演説を始める。

我愛する國人よ、時機が迫つてゐるから、既に言つておいた以上を言ふ暇
はないが、是非これだけを記憶しておいて下さい。我軍は正義の兵であ
つて、神が御賛助を賜はるといふことを。貴い聖者たちの御誓願、又、非
道に殺された人々の祈禱が、共に、高く築かれた鐵壁となつて吾々を守る。
吾々の敵としてゐる者と雖も、リチャードを除くの外は、いづれも、むしろ、
吾々の勝たんことを望んでゐる。諸君、彼れは、實に、残酷無慚な暴君で
す、虐殺者です、血で立身をして、血で位置を固めた奴、屢々奸計を運して
其野心を遂げながら、其奸計の同類をさへ殺した奴、下劣な、汚らしい只の
石なのだが、王座といふ臺座に簞込んだ爲に、其お庇で寶石とも見える奴、

常に神の怨敵であつた奴。である以上、若し諸君が之を討伐せらるゝに於ては、神は必ず諸君を神兵とお見做しあつて、御擁護下されるに相違ない。虐君である以上、彼れを斃せば、諸君が初めて枕を高うすることが出来る。國家の敵である以上、諸君の努力は後の富榮を以て報いられるであらう。諸君の妻女たちの爲にする防禦戦である以上、妻女たちは諸君の凱旋を特に歡んで迎へるであらう。諸君の子供らの爲でもある以上、其子供らの子供らが、諸君の老後に、感謝の意を表するであらう。然れば神の爲に、又、右謂ふ所の諸正義の爲に、軍旗を進めて、勇んで劍をお抜きなさい。若し此大膽な一擧が失敗に終るに於ては、其責を負ふべき自分は此冷かな地上に、冷かな亡骸を横へるであらう。が、幸ひに勝利となれば、諸君の最も微少なる者と雖も、此一擧から生ずる所の利益を、必ず相當に分與せらるゝであらう。さ、大膽に、快活に喇叭を吹け！ 太鼓を打て！ 神

よ！ ジョー ルジ 尊者よ！ リッチモンドに勝利を與へたまへ！

リッチモンドら一同入る。

・ 他方のテントへ、王リチャード、ラトクリフ及び其他の侍士兵士らを従へて出る。

王 ノオサンブランドはリッチモンドの事を何と言つた？

ラトク あの仁はまるで戦争のことは知らない、といはれました。

王 全く其通りだ。其時、サリーは何といつた？

ラトク にやりと笑つて「そりや此方の爲にや都合が好い」といはれました。

王 もつともだ。全くさうだ。

此時、時計が打つ。

時計を算へる。…暦をよこせ。けふ誰れか太陽の出たのを見たか？

ラトク 手前は見ません。

王 ちや、出ようとしのないのだな。(曆を見ながら)書いてあるところちや、一時間も前に、東が赫となる筈だ。だれかに暗い日だ今日は。……ラトクリップ!

ラトク 御前!

王 太陽は今日の出さうにない。空が曇面をして我軍を睨んでゐる。如是な濕っぽい涙のやうなものが地上へ降りてゐなけりや可いのに。けふは晴天にやならん!……なアに、リッチモンドにだつて然うだ、そんな事は何でもないこつた! 同じ空が、両方へ向つてむづかしい顔をしてゐるんだ。

ノオフオルク 出る。

ノオフ さ、さ、御出陣なさいまし。敵は既に傲然として押出して参りました。

王 (突立ち上つて) さア、活動々々! おれの馬に装具を着ける。スタンリ―へ使者を遣つて、すぐ兵を持つて来いと言へ。おれは手の者を原頭へ進めて、さうして陣形を整へよう。前備へは悉く横の一行に陣取らせよ

う、騎兵も、歩兵も同様に。射手は真中に置くことにする。ノオフオルク公爵ジョンとサリー伯爵トマスとは、おのゝ其歩騎兵をひきゐて貫はう。此先鋒を進めておいて、予は全軍を以て續くことにする。本陣は最も主な騎兵隊を以て其兩翼とするのだ。此強兵に加ふるに、ジョールジ尊者の加護がある!……どう思ふね、ノオフオルク!

ノオフ 結構な御軍略と存じます。……(と一の紙片を取り出して)今朝斯ういふものを拾ひました。

書いた物を見せる。

王 (受取りて讀む)「ノオフオルクの競馬手よ、餘りに勇を恃む勿れ、汝の主たるディッコ(リチャード)は、既に賣買され了んぬ。……こりや敵の策だ。……(と紙片を投げすて)さア、みんな、自分々の部署に就きなさい。……浮漚のやうな夢なんかに怯えるにや及ばん。良心で語は臆病者の使ふ語だ。」

強い者を威す爲に工夫されたのだ。強い兵が此方等の良心だ。劍が法律だ。……進發ッ！ 勇猛に敵にぶツつかれ！ 無二無三にやツつける！ 若し天へ往かれなけりや、手に手を取つて地獄へ往かうぞ。

と言ひつゝ、進みいで、全軍に向つて、演説をはじめぬ。

既に言ひわたした事以外に、もう何を言はうかり。お前たちが戦ふ其敵手を善う記えとけ。無頼無慚の宿無し共だ、脱走者だ、ブリトン人中の襤褸屑同様の、下等な土百姓どもだ。奴等の國は、充溢になツちまつてゐるので、自暴自棄になつて、命の無いのを承知で、冒険をしようといふ奴等だ。で、お前らが安眠してゐる處へ不安を持たむ。お前らには田畑があり、綺麗な妻があるから、奴等は其一を強奪し、其二を強姦しようといふのだ。ところで、其奴らをひきゐる奴は誰れかといふと、おれの阿母が金を與つて、ブリトンで養つておいてやつた下劣な野郎なんだ。生れてから、雪中へ

靴を踏入れた時の冷さ以上を経験したことのないやうな柔弱野郎だ。なア、さういふ無頼漢を撲り附けて、海外へ追ッ拂ツちまはう。おい、あの自惚れた佛蘭西の襤褸切どもを、あの餓え通しで、生き疲れてゐる乞食どもを叩き附けて追ッ拂ツちまへ。あいつらは、こんな馬鹿な仕事の手蔓がなかつたなら、夙に食ひはぐれて、首を縊つた筈の溝鼠だ。假令負けるにしても、あのブリトンの私生兒共にや負けるな。吾々の先祖は、奴等の本國まで踏込んで往つて、ぶつて、なぐつて、叩きのめして、長く記録の上に、奴等の恥を曝させたもんだ。そんな奴等に此國を奪らせる積りか？ 吾々の妻と臥させるか？ 我女どもを強姦させるか？ (此うち陣太鼓の音が聞えはじめ) やッ！ 太鼓だ。……奮戦しろ、勇敢な英吉利の武士ども！ 奮戦しろ、勇猛な郷士ども！……射手、おのしらの弓を満月の如く彎絞れ！ 堂堂たる軍馬に激しく拍車をくれて、血の中へ乗込め。投槍の折れた柄を

撥跳して、蒼空を吃驚させろ！……

使者出る。

(目早く見て) スタンリーは何といつた？ 兵を持つて来るか？

使 御前、参るのを拒みました。

王 奴の小伴の首をぶツ切ツちまへ！

ノオフ 御前、敵は既に沼を越えました。 ジョージ・スタンリーの御處刑は御一戦後になさいまし。

王 (頻りにむしやくしやしなから) 心が千もあつて、此胸中で、働いてるやうだ…… (衆に) 軍旗を進めて、敵へ掛れ。…… 古來勇猛の替名たるジョージ尊者よ、何卒火龍の猛勇を我々一同へ吹込みたまへ！…… 掛れツ！ 勝利は此方の者だ。

皆入る。

第四場 戦場の他の方面

太鼓をけた、ましく打鳴らす。 突出。 ノオフォルクの一隊、敵と戦ひつゝ出る。 と、ケーツビーがあわたくしく走つて出る。

ケーツ (ノオフォルクに) 援兵々々！ ノオフォルクどの、早く援兵をお送り下さい！ 王は人間以上の駭ぐべき奮戦をなすつて、刃向ふ奴等を片ツ端からやつつけてお在ですが、お馬が斃れたので、徒歩立で戦つてお在です、是非ともリツチモンドめを討取るとおつしやつて。 早く應援して下さいと、敗北です。

又けた、ましい太鼓の音。王リチャード出る。

王 馬を持って、馬を！ 馬をく！ 此國でも何でも代りに與る！

ケイツ 御前、ま、お退却なさいまし。乗馬は、手前が求めますから。

王 馬鹿、此一目に命を賭けたのだ。目の出るまでは退却むものかい！

此戰場には、リッチモンドが六人もわががるらしい。五人までも討取つたが、彼奴ちやアない。馬を持って、馬を！ 此國でも何でも代りに與る！

みなく入る。

第五場 戦場の他の方面

けた、ましい太鼓の音。リチャード夜叉の如くなつてリッチ

モンドを追ひかけ、戦ひつゝ出る。暫く立廻つて、とゞリチャードが殺される。リッチモンド一旦入る。と喇叭の聲。退陣。リッチモンド又出る。スタンリー、金の王冠を捧げ持ちて従ふ。他の貴族ら、兵士らもつゞいて出る。

リッチ 身方の諸勇士、是れ全く神の冥助と諸氏の勇戦とに因るのである。勝利

は吾々の有となつて、残忍な人畜めは命を失つた。

スタン 勇猛なるリッチモンドどの、立派なお働きであつた。御覽なさい、わたし

はあの残忍な奴が、長い間篡奪してゐた此王冠を、死骸の額から引剝いで來ました、あんたに獻ずるために。これを戴き、これを享樂し、これを善用なさい。

リッチ (天を仰いで) 大いなる天の神よ、其全部に對してアーメンを宣らせたまへ！

…時に、ジョージ・スタンリーは無事ですか？

スタン はい、安全に、リースターに。御異存がないなら、一同揃つて彼處へ引上げたいと存じます。

リッチ 双方の戦死者の、有名なものは誰々です？

スタン ノオフ オルク公爵 ジョン・ウオルター・ロオド・ファーラーズ、士爵 ロバート・ブラッケンベリー及び士爵 ウィリヤム・ブランドンです。

リッチ 身分柄相當の埋葬をしてやつて下さい。降参する者は、すべて罪を赦す

と布告して下さい。次に豫て宣誓したことであるから、白薔薇と紅薔薇

との合體を實行しませう。……上天、只今までは、双方の確執を、嘸、苦々し

く思しめされたでございませうが、此たび芽出たく合體いたしますれば、

何卒御嘉納下さいませうやう……これに對しては如何なる叛心ある者も、

よもやアーメンを唱へないではゐまい。英國は、久しい間氣が狂つて、

自ら傷けてゐたのである。兄弟が盲目にも兄弟の血を流し、父が無分別

にも其實子を殺し、子もまた止むを得ずして父を屠る、といふ有様であつ

た。此相分れ、相鬩ぎ、相戦つてゐたヨオク、ランカスターをば、お、兩王

家の正統の相續者たるリッチモンドとエリザベスとをして、神の恩命によ

つて、結合せしめたまへ！ 而うして、お、神よ、若し神慮をここに在らば、

兩人の者の嗣の世には、天下飽迄も太平に、國土ゆたかに實り、めでたく富

み榮えさせたまへ！ 萬一にも残酷な内亂を再びして、此英國をば血河の

中に在らしめて泣かすやうな逆賊がございしましたら、忽ち其銳鋒をお挫き

下されて、此良い國の平和を裏切る如き輩には、決して當來の幸榮を味ひ

得るまでの壽命をばお與へ下さるな。……今や内亂の傷は癒えてしまつて、

平和が又蘇生つて來た。其平和を永遠に存せしめるために、神よ、何卒願

はくば、アーメンを宣らせたまへ！

皆入る。

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

大大大大
正正正正
九八七七
年年年年
四八十二
月月月月
二十十五
日日日日
三再發印
版版版版
發行行行

(製複許不)

附與世三ド一ヤチリ
錢拾五圓貳金價正

譯者

東京市牛込區余丁町百十四番地
坪内雄藏

發行者

東京市小石川區音羽町四丁目十一番地
荒川信賢

印刷者

東京市牛込區榎町七番地
渡邊八太郎

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部

(振替口座東京二二三三番)

印刷社會式株刷印清日

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

シェークスピア
傑 作 集

(第七編)

テロペスト

(三 版)
寫真版口繪入
木版密畫多數入
正價壹圓五拾錢
郵稅金八錢

大沙翁が最晩年の傑作にして其絶筆と信ぜられたる夢幻詩劇！是れ喜劇？仙話？樂劇？象徴劇？作者が自傳の概要？彼の四大悲劇などとは全く其調を殊にせり。如是絶類の作を含味せずして大沙翁の大沙翁たる所以を知るべからず。本篇には譯者特に讀者の爲に六十餘頁の長論文を添へて其解讀の枝折とせり。

シェークスピア
傑 作 集

(第八編)

アントニオとクラレオパトラ

(三 版)
三色版口繪入
木版密畫多數入
正價壹圓五拾錢
郵稅金八錢

沙翁が偉大なるは其作の彌、出て彌、傑特に、作意の變化して窮らざるに存す。此作は彼れが燃熱期最後の傑作、巧に世界的悲劇の契機を捉へて、全世界に君たらんか熾烈なる肉戀を全うせんか、大テレンマに達着せる英雄的、蕩兒が功名の末路を活寫し、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出し、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめたるもの。殊に妖女王が性格の描寫は眞に驚異中の驚異、古今空絶。次に全篇に漲れる漢楚軍談風の男性的政治的興味は在來諸悲劇の未だ移植し得ざりし所。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 早 稻 田 牛 込 早 稻 田

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

シェークスピア
傑 作 集

(第九編)

真夏の夜の夢

(再 版)
三色版口繪入
木版密畫多數入
正價壹圓五拾錢
郵稅金八錢

大沙翁が多方面なる天才の、空想側面の代表作として眞に醉乎として醉なる者、其姉妹編「テムペスト」に比して更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸、五幕十幾場、其三分の二は悉く幻、想も幻、其調も幻、妖魔類に跳梁して恣に人間を翻弄す、人妖錯綜し、極めて自然に、理窟を全脱して條理却つて整然、艶情あり、滑稽あり、葛藤あり、悲喜あり、忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色、「オセロー」「マクベス」の作者にして此作ありとは!!!

シェークスピア
傑 作 集

(第十編)

マクベス

(四 版)
三色版口繪入
木版密畫多數入
正價壹圓五拾錢
郵稅金八錢

ドストイェフスキの「罪と罰」の規模を更に雄大にし更に劇化せる如き名篇にして或は「ハムレット」以上、「オセロー」以上、「リヤ王」以上と稱せらる、沙翁の傑作。以上拾編、何れも傑作中の傑作。
本編の附録として譯者の添へたる「日本に於ける沙翁研究、翻譯脚案及び上演の略誌」は研究の沿革を尋ね、著譯書に就ては其年順書名、著譯者名、發行所名を明にし、其上演に就ては其年月、外題、譯者、俳優、劇場を詳にせるを以て、沙翁研究者の必讀を要す。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 早 稻 田 牛 込 早 稻 田

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

シェークスピア
傑作集
(第十一編)

以尺報尺

馬真版口繪入
木版插圖多數入
正價壹圓五十錢
郵税金八錢

例の四大名作以下既刊十種の外に更に傑篇十種を選び向ふ二ヶ年を期して譯了刊行の豫定。
本篇は沙翁が最も皮肉なる喜劇と特稱せらるゝ其悲觀時代の一名作。現實曝露的なる所一
味シヨ、フリーユールの近代劇と相通す。附録として特に難句解をも添へたり。印刷、挿畫、
裝釘、其他一切前例の通り。

シェークスピア
傑作集
(第十二編)

冬夜のたふし

三色版口繪入
木版插圖多數入
正價壹圓五十錢
郵税金八錢

つい先年英のパーカーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技
巧に成つた作で、今尙舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜劇的氣
分との混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を含
味しないうちは沙翁を語る権利がないのである。

發行所 東京早稲田 早稲田大學出版部

終

